

久御山中央公園再整備基本計画（素案）

Ver1222

目次

第1章	計画の背景	1-1
1.1	町の概要.....	1-1
1.2	中央公園の概要	1-3
1.3	関連施策.....	1-6
1.4	中央公園再整備の目的.....	1-8
1.5	中央公園の現状と課題.....	1-9
1.6	荒見苑の概要.....	1-14
1.7	プロジェクト会議とその成果	1-15
1.8	「地域主体」の組成と広がり	1-16
第2章	住民等のニーズ.....	2-1
2.1	アンケート調査	2-1
2.2	再整備検討委員会における主な意見.....	2-12
第3章	近年の公園ニーズについて.....	3-1
3.1	事例	3-1
3.2	他事例から読み取るべき示唆	3-10
第4章	再整備のコンセプト	4-1
4.1	再整備のコンセプトと基本的な考え方	4-1
4.2	利活用のイメージ	4-1
第5章	コンセプトに基づく再整備の方向性	5-1
5.1	再整備の基本的な方向性.....	5-1
第6章	プレ・サウンディングに基づく民間事業者のコメント	6-1
第7章	事業スキームの検討	7-1
第8章	再整備のスケジュール案	8-1
第9章	まとめ	9-1

第1章 計画の背景

1.1 町の概要

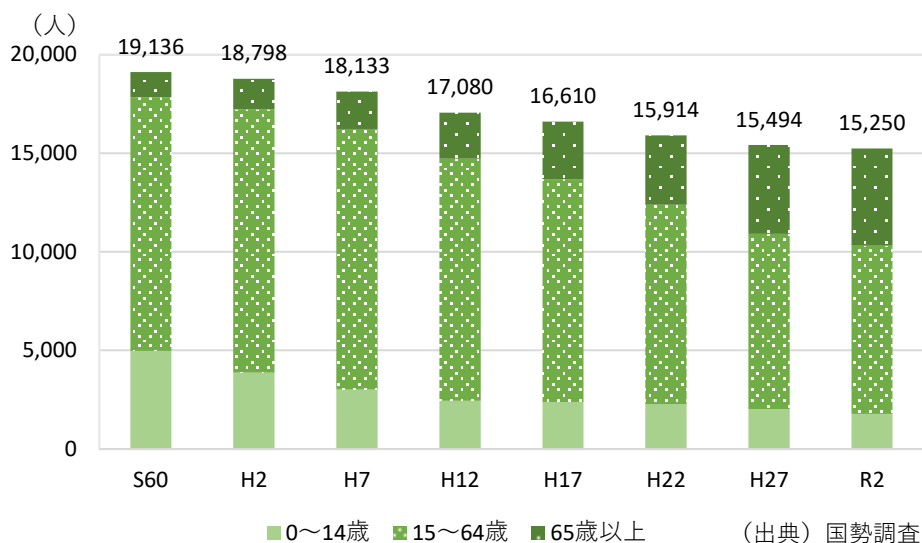
人口：

- 15,511人（令和4年11月1日現在）
※住民基本台帳による
- 令和2年国勢調査では15,250人となっており、昭和60年の19,136人をピークに減少
- 年齢3区分別人口比率の推移をみると、年少人口（0～14歳）比率は近年、横ばいとなっているが、老年人口（65歳以上）比率の拡大が顕著で、本町の年齢区分別の人口は、生産年齢人口比率の低下、老年人口比率の拡大が特徴である。
- 隣接市と比較して昼間人口が31,499人が多い
- 近年は外国人も増加

図表 1-1 久御山町位置図



図表 1-2 人口の推移



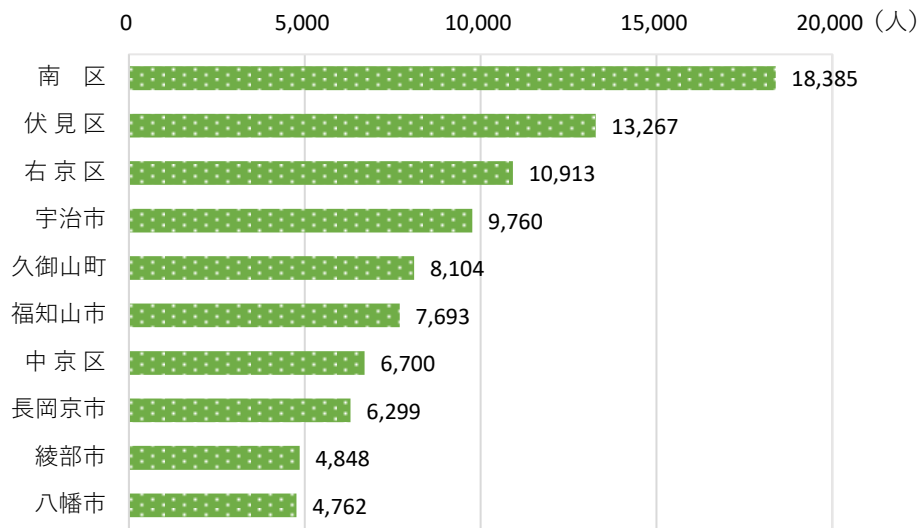
アクセス：

- 一般国道、バイパス道路、新名神高速道路等からのアクセスが良好で、関西地域における道路交通ネットワークの拠点の一つ

産業の特徴：

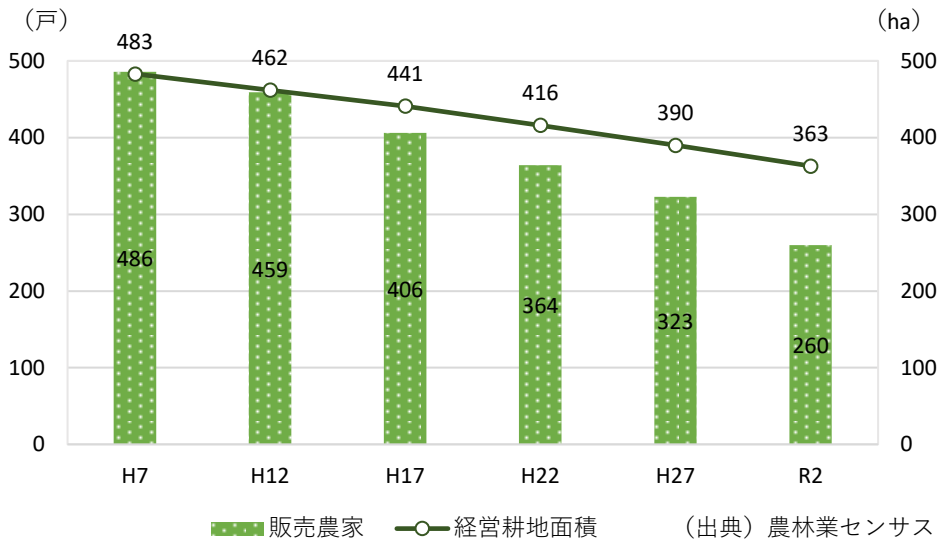
- 製造業の従事者（8,104人※令和3年経済センサス）が多く、京都府内有数の製造業集積地域
- 農業では都市近郊の優良な野菜産地を形成。

図表 1-3 京都府内上位 10 市区町村 製造業従事者数



(出典) 令和3年経済センサス-活動調査 産業別集計

図表 1-4 販売農家数及び経営耕地面積の推移



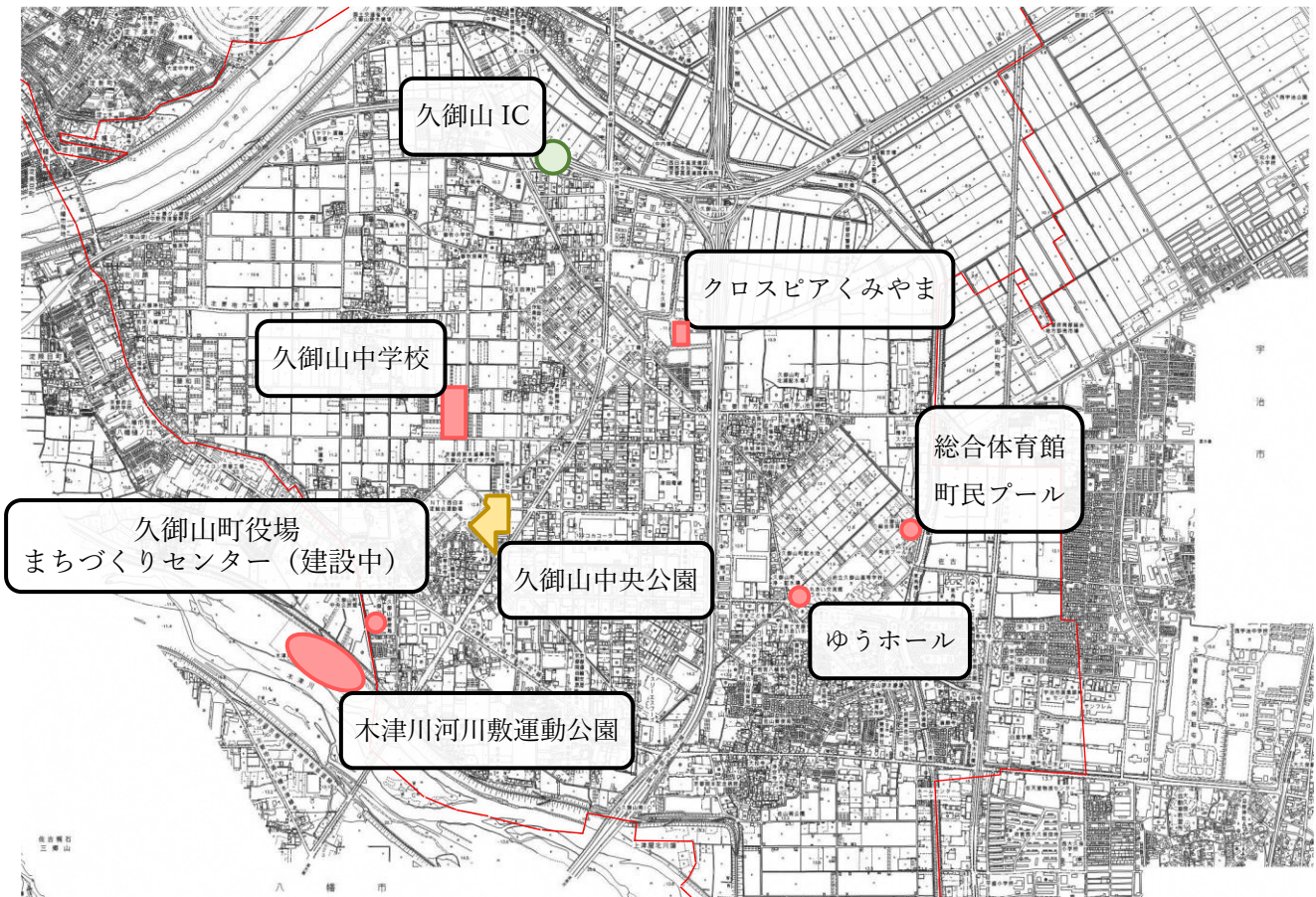
(出典) 農林業センサス

1.2 中央公園の概要

◆中央公園の位置

- 久御山中央公園は、町内の「住」「農」「工」を司るエリアを結び付け、多様な人々の交流・活躍の場を提供する「中心エリア」に位置している。

図表 1-5 位置図



◆中央公園の概要

図表 1-6 中央公園の概要

名称	久御山中央公園
法律による位置づけ	都市公園（近隣公園）
所在地	京都府久世郡久御山町田井新荒見 1 他
敷地面積	27,062.5 m ² （駐車場敷地を含む）
（うち運動施設面積）	12,401 m ² （仮設スケートパークを除く）〔敷地面積の 45.8%〕
（うち植栽面積）	16,900 m ² （芝生の敷設エリアを含む）〔敷地面積の 62.5%〕
建築面積合計（壁を有しない開放性を有する建築物を含む）	1,058.2 m ² （管理棟〔荒見苑〕、便所 2 棟、シェルター、GB場上屋ほか）〔敷地面積の 3.9%〕
（壁を有する建築物の建築面積）	532.7 m ² （管理棟〔荒見苑〕、便所 2 棟）〔敷地面積の 1.97%〕

図表 1-7 配置図



◆沿革

(設置告示) 昭和 53 年 4 月 1 日

(沿革) 昭和 53 年 4 月にグラウンド 9,807 m² を開設。

その後、テニスコート・修景施設(5,670 m²[S56.4])やゲートボール場ほか、各種施設を順次整備し現在に至る

◆公園内主要施設

図表 1-8 公園内主要施設

区分	内容等
管理施設	<ul style="list-style-type: none"> ・管理棟 [老人福祉センター荒見苑] ・倉庫 ・照明灯、掲示板ほか
遊戯施設	<ul style="list-style-type: none"> ・砂場 ・複合遊具など
休養施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチ ・シェルター 1 箇所
教養施設	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント舞台
便益施設	<ul style="list-style-type: none"> ・水飲場 ・手洗場 ・便所 2 箇所 ・時計台

	<ul style="list-style-type: none"> ・脱衣室・更衣室 1箇所 ・駐車場 ・駐輪場
修景施設	芝生広場、築山、植栽、花壇、生け垣、パーゴラ、藤棚ほか
運動施設	グラウンド 1面（夜間照明あり） テニスコート 2面（夜間照明あり） ゲートボール場及びグラウンドゴルフ場 各1面 スケートパーク [仮設]

（参考）都市公園法及び都市公園法施行令等による建築制限

公園施設として設置できる建築物の建ぺい率：2%（都市公園法第4条第1項、町都市公園条例第5条第1項）

※休養施設（施行令第5条第2項）、運動施設（施行令第5条第4項）、教養施設（施行令第5条第5項）、備蓄倉庫（施行令第5条第8項）ほかの建ぺい率：上記の他に10%（都市公園法施行令第6条第2項、町都市公園条例第6条第1項第1号）

※屋根付広場、壁を有しない雨天用運動場、その他高い開放性を有する建築物の建ぺい率：上記の他に10%（都市公園法施行令第6条第4項、町都市公園条例第6条第2項）
 便益施設（飲食店、売店等）の建ぺい率：2%（都市公園法第4条）

※公募設置管理制度（いわゆる Park-PFI）による場合は施設内容によって建ぺい率の10%上乗せ上限10%以上となる。ただし、この町による条例制定が必要。

（参考）法令など国において都市公園の付与充実が求められる機能

◆都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン

・「高齢者、障害者等の移動等の円滑化を促進に関する法律（平成18年法律第91号）」等に基づき、国土交通省から「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン」が示され、都市公園整備にあたっては、施設の整備管理だけでなく、利用案内等の情報面にもバリアーが生じないように、ハード・ソフト面からバリアフリー化が求められている。

◆グリーンインフラ推進戦略

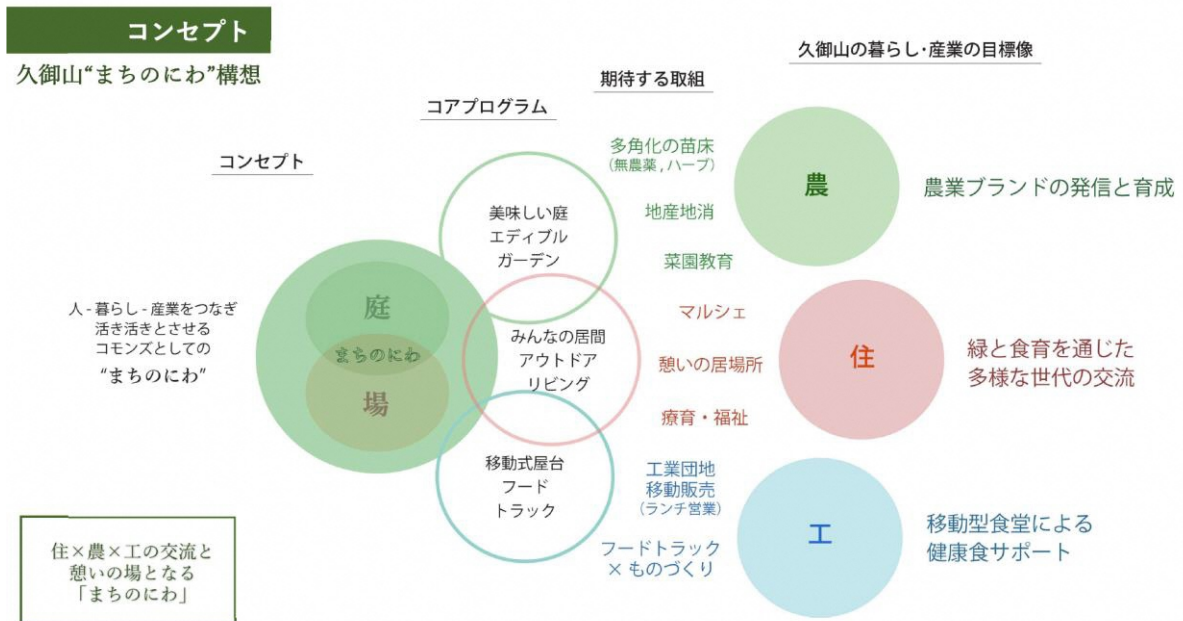
・社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進めるため、国土交通省において「グリーンインフラ推進戦略（令和元年7月）」を策定。公園を含む都市空間においては、雨水の貯留・浸透施設の整備による治水対策、緑地による遮熱緩和対策や雨水の循環利用、人々が自然とつながりながら集い、楽しみ多様な活動の舞台となる緑豊かな生活空間づくりに取り組むことが強く求められている。

1.3 関連施策

1.3.1 「まちのにわ」構想

- 「食」を軸に、住、農、工の3分野の交流を通じて、将来の活力ある久御山作りを提唱するものとして、令和元年2月に策定。
- 中央公園に野菜やハーブなどを育てる「エディブルガーデン」を作り、これを菜園教育や食育等に活用すると共に、町内のクロスピアとの連携やフードトラックの活用と合わせ、食と農によって久御山の農業と住環境の魅力を、町内外の人に広く伝えることを目指そうというもの。
- 同構想の具現化に向け、2019年度から3年間に渡り、「久御山まちのにわ構想推進プロジェクト会議」（以下、「プロジェクト会議」）における議論が行われ、これを踏まえた様々な取組が展開されている（詳細は後述）。

図表 1-9 久御山“まちのにわ”構想コンセプト



1.3.2 CCAC 構想

- 「全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』」を掲げ、これを具体的に進めるための基本方針として、令和2年3月に「～夢いっぱいコンパクトタウン くみやま CCAC 構想～」（以下、「CCAC 構想」）を策定。

■くみやま CCAC 構想の基本理念

あらゆる世代の住民が、「居場所」と「役割」を持ってつながり、交流しながら、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができ、若年層をはじめ、障害者など誰もが地域で働く場を確保し、子育て世代が安心して出産・子育てできる地域づくりを推進することにより、久御山モデルの「地域共生社会」を実現すること

- CCAC 構想においては、同構想を実現し、居場所と役割のあるコミュニティづくりを行うため、あらゆる人やあらゆる世代の人口が交流する「場」の提供が必要と整理。
- 全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」構想の中心的な機能を担う施設として、従来の中央公民館の社会教育・生涯学習拠点の機能を向上させ、多世代交流拠点としても位置付けられるまちづくりセンターを令和7年度中の開館を目指し整備中

■まちづくりセンターに期待される7つの機能

- ①子育て支援、②子供からシニア世代、高齢者の活動支援、③生涯学習環境の充実
④多世代交流・多文化交流、⑤社会福祉領域との連携・協働、⑥防災、⑦文化財

1.3.3 歩くまち「くみやま」推進事業

- 令和3年11月3日に「歩くまち宣言」を行い、令和4年度より『歩くまち「くみやま」推進事業』を実施中。
- 全世代・全員活躍のもと、日常生活に「歩く」を根付かせ、「歩きたくなる」意識を醸成し、「歩きたくなる」環境を整備することで、「歩くひと」を増やし、「歩く」ことをテーマにしたまちづくりを進めている。
- 健康増進や介護予防に住民自らが取り組み「健康寿命の延伸」と「医療費の削減」を図ると共に、「歩く」ことを通して「生涯スポーツの推進」「コンパクトタウンの実現」「SDGsの目標達成」を目指す。

■歩くまち「くみやま」推進事業における基本方針

基本方針Ⅰ：安全に楽しく「歩きたくなる」まちづくり

基本方針Ⅱ：全世代向けの「歩く」情報の発信・拡散

基本方針Ⅲ：「歩く」ことがライフスタイルに繋がる仕掛けづくり

1.3.4 その他上位計画等における中央公園の位置づけ

(1) 第5次総合計画

まちの将来像「つながる心 みなぎる活力 京都南に「きらめく」まち」

【公園・緑地の整備 p 63】

① 久御山中央公園については、町のふれあい交流拠点となる中心的な公園として機能充実に図り、施設改修を推進します。

(2) 第2期久御山町総合戦略

【快適な環境の維持・創出 p 8】

豊かな緑が日常的に感じられるよう、身近な環境における公園・緑地等の積極的な整備を進めます。

(1) 身近な緑に親しむ環境の創出

○ 町の中心的な公園である久御山中央公園の整備、拡充

1.3.5 荒見都市下水路流域の内水排除対策

- ・ 久御山町が平成29年度に実施した町管理の河川、都市下水路流域における排水解析の結果、1/10年確率の降雨時に、市街化区域等において浸水被害の発生が予測されたことから、都市下水路事業によって各地の浸水被害対策に取り組んでいるところ。
- ・ 久御山中央公園の属する荒見都市下水路下流域の浸水被害の回避のためには、一時的に雨水を溜め込むための「調整池」の整備が必要であるが、付近に適切な整備用地が見当たらないことから、中央公園の再整備に併せて公園グラウンド地下に埋設型の雨水貯留施設を整備し、浸水被害の発生を回避する。

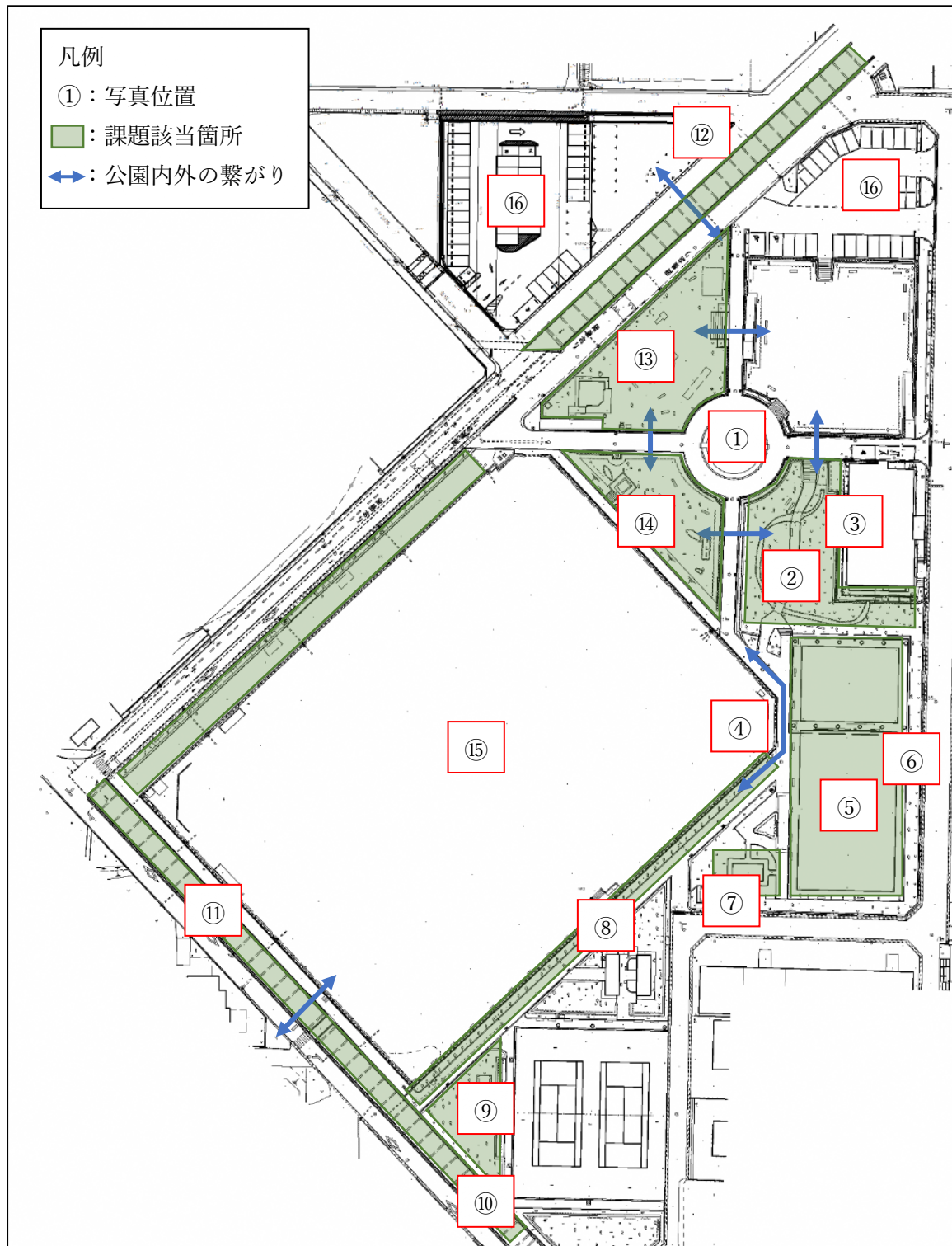
1.4 中央公園再整備の目的

上記関連施策等を踏まえ、中央公園再整備の目的は以下の通り位置づけられている。

- ・ 住×農×工の交流によりまちの活性化を図ろうとする「久御山まちのにわ構想 (R1.2)」の具現化
- ・ CCAC構想に基づく、誰もが憩いゆったりと過ごせ、子ども達が自由に遊べる機能・施設を持つ公園の整備
- ・ 荒見都市下水路流域の内水排除対策を目的とした防災機能の付与（調整池の整備）
- ・ 運動施設機能の充実による公園の価値向上（調整池整備に伴うグラウンド再整備等）

1.5 中央公園の現状と課題

1.5.1 空間の使い方に関する現状課題



空間の使い方に関する現状課題を以下に整理する。なお、番号については次頁の写真一覧表の番号と整合しているものとする。

■写真一覧表

<p>①</p> 	<p>②</p> 	<p>③</p> 
<p>高低差によって階段や坂路を使用しないと四方の空間へ行けない状況であるため、空間のつながりが希薄である</p>	<p>樹形の良い樹木が多く植栽されている一方、低木が多く見通しが悪い空間となっている</p>	<p>公園施設であるにも関わらず、公園との一体感が感じられない</p>
<p>④</p> 	<p>⑤</p> 	<p>⑥</p> 
<p>グラウンドの存在により、動線がスムーズではないため、南北のつながりが希薄である</p>	<p>特定の利用により、フレキシブルな利用はなされていない</p>	<p>植栽により、公園内の様子がほとんど見えない</p>
<p>⑦</p> 	<p>⑧</p> 	<p>⑨</p> 
<p>樹木がうっそうとしており、公園利用者がくつろげる空間となっていない</p>	<p>植栽により、グラウンド内の様子がほとんど見えない</p>	<p>樹木がうっそうとしており、未利用地となっている また、樹形の悪い樹木も多く見られる</p>

⑩	⑪	⑫
		
水路により、公園内外のつながり・アクセス性が希薄である	舗装が劣化している。 園路がグラウンドを狭めている	水路により、公園内外のつながり・アクセス性が希薄である
⑬	⑭	⑮
		
遊具が古く、一部破損により機能していないものもある	照明施設、石碑、樹木等により、空間が活用されていない	水はけが悪く、降雨量によっては翌日も利用できなくなる
⑯		
		
公園利用者以外の駐車が目立つ平時に、現在の駐車台数が必要か要検討		

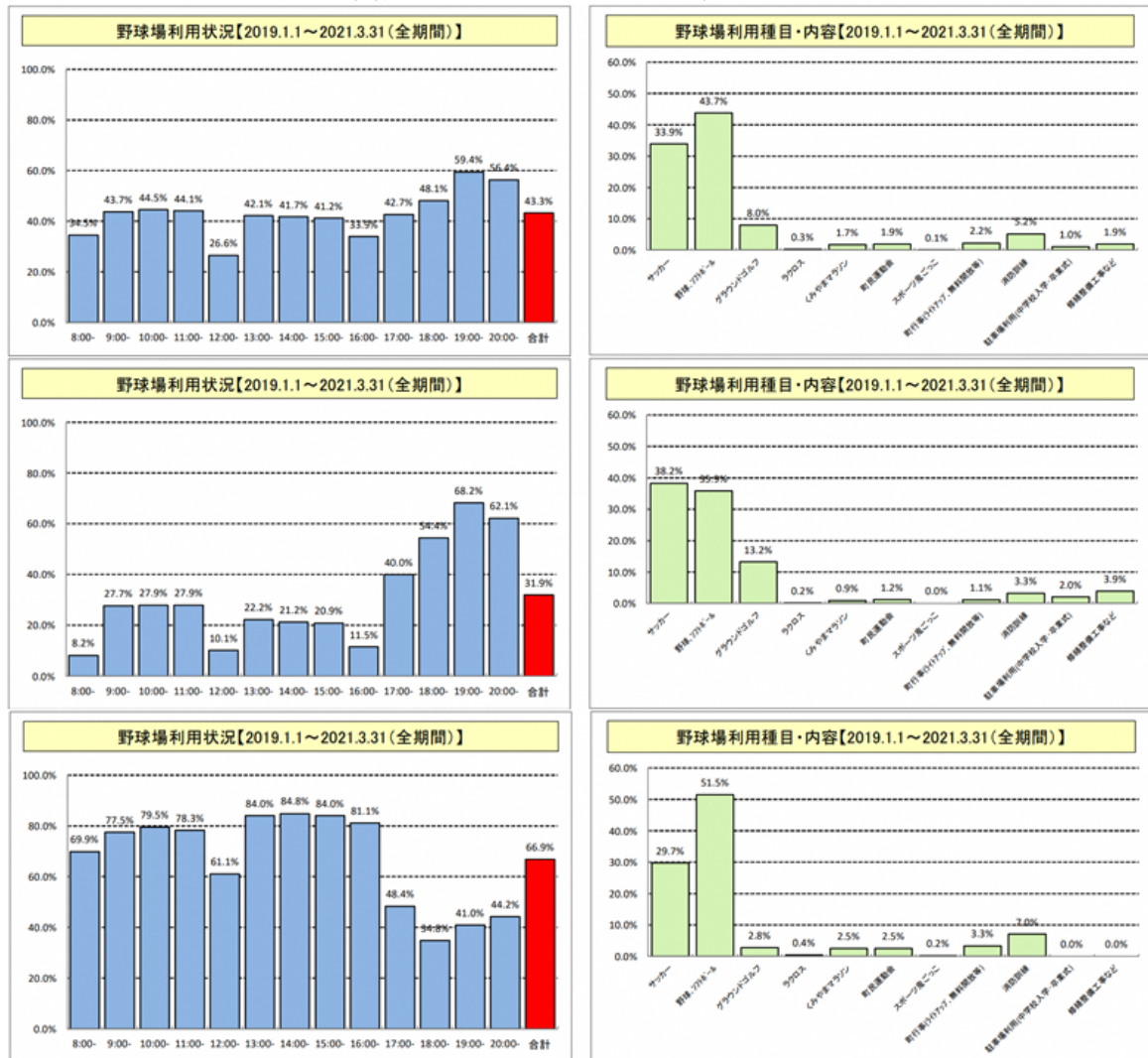
1.5.2 スポーツ関係施設等の利用状況

(1) グラウンド

使用時間帯(※休場日:12/29~1/3)		施設使用料(1時間あたり)	
5月~9月	10月~4月	平日	土日祝
8:00~21:00	9:00~21:00	800円	1,300円
		(照明使用料) 1,800円	

※町内者(在住、在勤、在学)が過半数いない場合、町外者とみなし施設使用料のみ2倍となる

図表 1-10 グラウンド利用状況



- 全日全体で見ると利用率は43.3%であり、19時から21時までは50%を超えている。その利用種目内訳は野球等44%、サッカー34%、グラウンドゴルフ8%、その他14%である。
- 平日では17時から21時までを除くほとんどの時間帯で利用率は30%を下回っており、日中は利用率に余裕がある状態。
- 一方、休日(土日祝)は、日中の多くの時間帯で利用率が70%を超え、17時以降は40%程度に低下している。

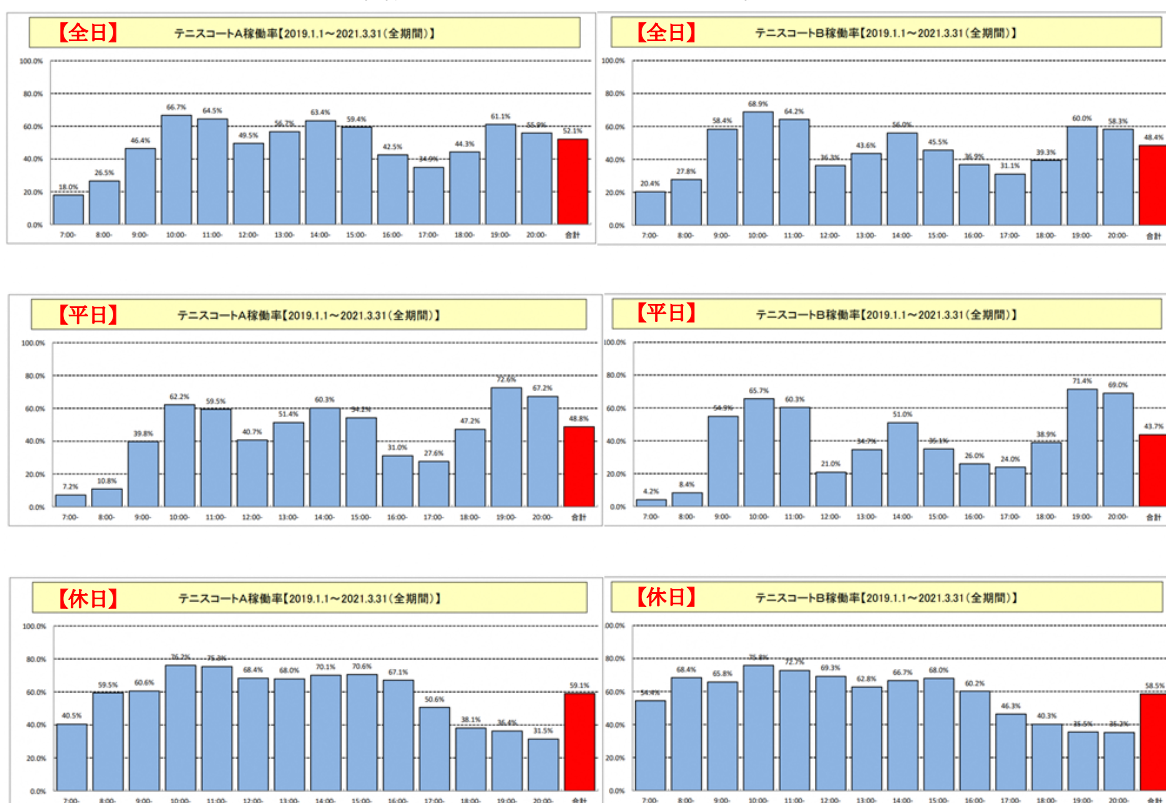
- 以上より、野球等とサッカーの双方を利用の中心に据えつつ、それ以外の多目的な利用の可能性も含め、平日昼間と休日夜間の利用率を高めるような工夫が求められる。

(2) テニスコート

使用時間帯(※休場日:12/29~1/3)		施設使用料 (1時間・1面あたり)	
5月~9月	10月~4月	平日	土日祝
7:00~21:00	9:00~21:00	600円	1,000円
		(照明使用料) 300円	

※町内者(在住、在勤、在学)が過半数いない場合、町外者とみなし施設使用料のみ2倍となる

図表 1-11 テニスコート利用状況



- 全日全体で見ると、利用率は50%前後であり、早朝・昼食時・夕食時に利用率が一旦落ち着く傾向である。
- 平日は、全日とほぼ同じ軌道を辿りながらも特に早朝の時間帯で利用率が低い。
- 一方で休日(土日祝)では早朝から夕方近くまで多くの利用が続き、17時以降段階的に利用率が低くなるものの、30%を下回ることはなく、高い稼働率を保っている。
- 全期間を通してAコート及びBコートは同じような利用率で推移していることから、同公園においては、少なくとも2面以上の需要はあると考えられる。
- 以上より利用率は比較的良好な傾向を示しているものの、早朝及び休日夜間の利用率をさらに高めるための工夫が望まれる。

1.6 荒見苑の概要

久御山中央公園内に位置する老人福祉センター「荒見苑」では、町内在住の60歳以上の高齢者が健康で明るい生活を営むことを目的に、地域社会での交流を深め、健康の増進を図り、教養の向上のためにレクリエーションの機会を提供している。

荒見苑は、公園の利用者も利用できる公園施設として建設され、都市公園法上の管理施設と位置づけられているが、出入口が公園と反対側の道路側にのみあることもあり、現状としては公園とは独立した施設として利用されている。

図表 1-12 荒見苑の概要

休館日	日曜日および祝日、12月28日から翌年の1月4日まで														
利用時間	午前9時から午後4時30分まで (ただし、土曜日は午前9時から11時30分まで)														
建築年	1985年(昭和60年)														
構造/階数	鉄筋コンクリート造瓦葺2階建て														
面積	建築面積 413.31 m ² /延べ面積 807.845 m ²														
平面図	<p>【1階平面図】</p> <p>【2階平面図】</p>														
利用者数	<p>荒見苑年間利用者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用者数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成27年度</td> <td>16,487</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>13,848</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>13,827</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>11,733</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>10,863</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>7,837</td> </tr> </tbody> </table>	年度	利用者数 (人)	平成27年度	16,487	平成28年度	13,848	平成29年度	13,827	平成30年度	11,733	令和元年度	10,863	令和2年度	7,837
年度	利用者数 (人)														
平成27年度	16,487														
平成28年度	13,848														
平成29年度	13,827														
平成30年度	11,733														
令和元年度	10,863														
令和2年度	7,837														

1.7 プロジェクト会議とその成果

- プロジェクト会議は、町が事務局となり、町内の住民や事業者、町外の実業家、学識経験者や民間のアドバイザー等様々な背景・業種の人々が集まり、それぞれ知見に基づき、多様なアイデアが提案・議論される非常にユニークかつ創造的な取組となった。プロジェクト会議での議論を踏まえ、コロナ禍で複数の計画が中止になりつつも、「まちのがっこう」等様々な取組が行われ、既に定着しつつあるものも生まれてきている。

<プロジェクト会議での議論を踏まえて行われた取組の例>

- ▶ 中央公園活用イベント（R元～）：中央公園の魅力が町内外の人に広く知ってもらおうと共に、新たな活用方法を発見するための各種イベントを実施。「くみやままちのがっこう」の他、バーベキュー、マルシェ、焚火等。
 - ▶ くみやままちのがっこう：久御山中央公園の将来の利活用ビジョンをまとめるため、公園の将来の使い方、機能、配置等をイメージするために、令和2年1～2月の週末に計4回連続して社会実験としてイベントを実施。飲食、音楽・発表、遊びなど様々なコーナーを設け、公園の使い方・楽しみ方について模索。第2回は住民主体の団体が企画・運営を実施（後述）
 - ▶ クミナリエ；上記イベント企画の一環として、12月に公園の一部エリアでイルミネーションを設置・点灯（R2年～）
 - ▶ 町内事業所等の昼食環境の向上を目的とした「フードトラック事業」の実証実験（R元年度）、実証実験結果を踏まえたフードトラック事業の本格実施（R2：3事業者が参画、R3年より本格実施）
 - ▶ 駐車場エリアの拡大（88台）一部エリアはスケボーパークとしても活用可能な形で整備（R3）
 - ▶ 北側エリアの噴水を円形ステージとして再整備。芝生広場とのアクセス改善のための階段も設置し、円形ステージ利用時の観客席としても活用
 - ▶ 改善要望の多かった北側エリアのトイレの改修
 - ▶ 今後の中央公園再整備に向けた民間事業者へのサウンディングの実施（R2：国土交通省官民連携地域プラットフォーム（近畿ブロック）のサウンディングに参加、R3：町独自で実施）
- また、プロジェクト会議における議論を踏まえ、今後の再整備基本計画策定にあたっての提案事項として以下の提案事項の整理が行われている。

図表 1-13 プロジェクト会議における提案事項

項目	内容・課題・留意事項等
既存ランドスケープの改修	<ul style="list-style-type: none"> 敷地の高さを周辺と合わせることによって、計画上の制約が少なくなり、より高質な計画が可能になる。 樹木の適切な配置により、見通しが向上して防犯対策になり、管理コストの削減も図れる。 記念碑などの設置物は集約することにより、活用スペースの拡充を図ることが出来る。 高低差解消や設置物の撤去などに費用がかかる

荒見苑裏の高木及び高低差の解消	<ul style="list-style-type: none"> • 屋根付き広場方面への見通しが生まれ、回遊性が向上する。 • 荒見苑が公園施設として活用できる場合に、公園に面して出入り口を設けることが可能となり、一体的な施設利用が可能になる。 • 緑陰が減少する場合は、他の場所への形成配慮が必要
荒見苑の公園施設としての活用	<ul style="list-style-type: none"> • 管理棟など公園の管理・運営及び休憩・飲食・ナーサリー施設等公園の質の充実に必要なハード機能に対応可能（※現在も夏季期間は一部一般開放） • 既存の利用者、関係者等との調整が必要 • 使い勝手のよいプランへの変更・建物自体の改修が必要
テニスコート側の改修	<ul style="list-style-type: none"> • 低利用エリアの活用によるテニスコートの増面、これに伴う収入増、3on3コートの新設等の検討が可能。 • 改修費用等が必要になる他、テニスコートは前回の改修から未だ日が浅いことも課題
都市下水路&管理用通路の敷地への組み込み	<ul style="list-style-type: none"> • 都市下水路の上部空間を活用することで、公園及び駐車場の面積を増加。 • 駐車場からの安全なアプローチ確保や通り抜け抑制による公園周辺の通行安全も確保。 • 事業費増加の他、沿道住民との合意形成、周辺交通計画の検討等が必要

1.8 「地域主体」の組成と広がり

- プロジェクト会議を踏まえた中央公園の活用イベントにおいては、これらを自ら企画・運営する地域主体の組成・定着の取組も行われた。その結果、平成30年度の第1回「まちのがっこう」の開催を踏まえ、これら久御山中央公園でのイベントの実施主体として、昨年度（R3）より住民有志による団体「KUMIDAN(クミダン)」が結成され、活動を行っている。
- KUMIDANは、町内の事業者等5名で結成され、既にNPOとしての法人格も取得済。R4年度現在では、メンバーは8名となっている。KUMIDANでは、コロナ禍でイベント開催が出来ない間に、オンラインにて参考事例の研究、視察及び運営事業者へのヒアリング等を実施し、今後のイベント開催に向けた知見の集積を行い、これらも踏まえ、令和3年11月には、KUMIDANが主催する形で「まちのがっこう」が開催された。また、令和4年2月には、久御山中央公園での開催を企画していた「焚き火とワインの会」がコロナ禍で中止になった代替として、将来の久御山中央公園でやりたいことや整備後の公園の姿などについてディスカッションを行うオンラインイベントも開催している。
- また、今年度（R4）から、地域主体の様々な体験交流活動を行う組織の発掘と育成を促進するため、町内各所でのマルシェの企画・運営を中心に活動を行う「MAHARO（マハロ）」や近隣の大学の学生サークル「KminK（クミンク）」などと共に、中央公園の利活用のあり方を検討企画するワークショップが開催された。これらの取組を通じ、再整備後の中央公園において地域主体の様々な活動が行われることが期待される。
- 以上の通り、久御山町においては久御山中央公園等の活用をきっかけに、住民主体で地域づくり・地域の活性化に繋げようとする動きが出始めており、中央公園の再整備は、これら動きをさらに後押し・加速するようなものであることが求められている。

第2章 住民等のニーズ

2.1 アンケート調査

2.1.1 集計概要

■実施方法（実施詳細は参考資料参照）

- 一般利用者（町内中学生も授業の一環として対象とした）、グラウンド利用者、荒見苑利用者、の3種類に分けて実施

■実施結果

【合計（初回+追加）】

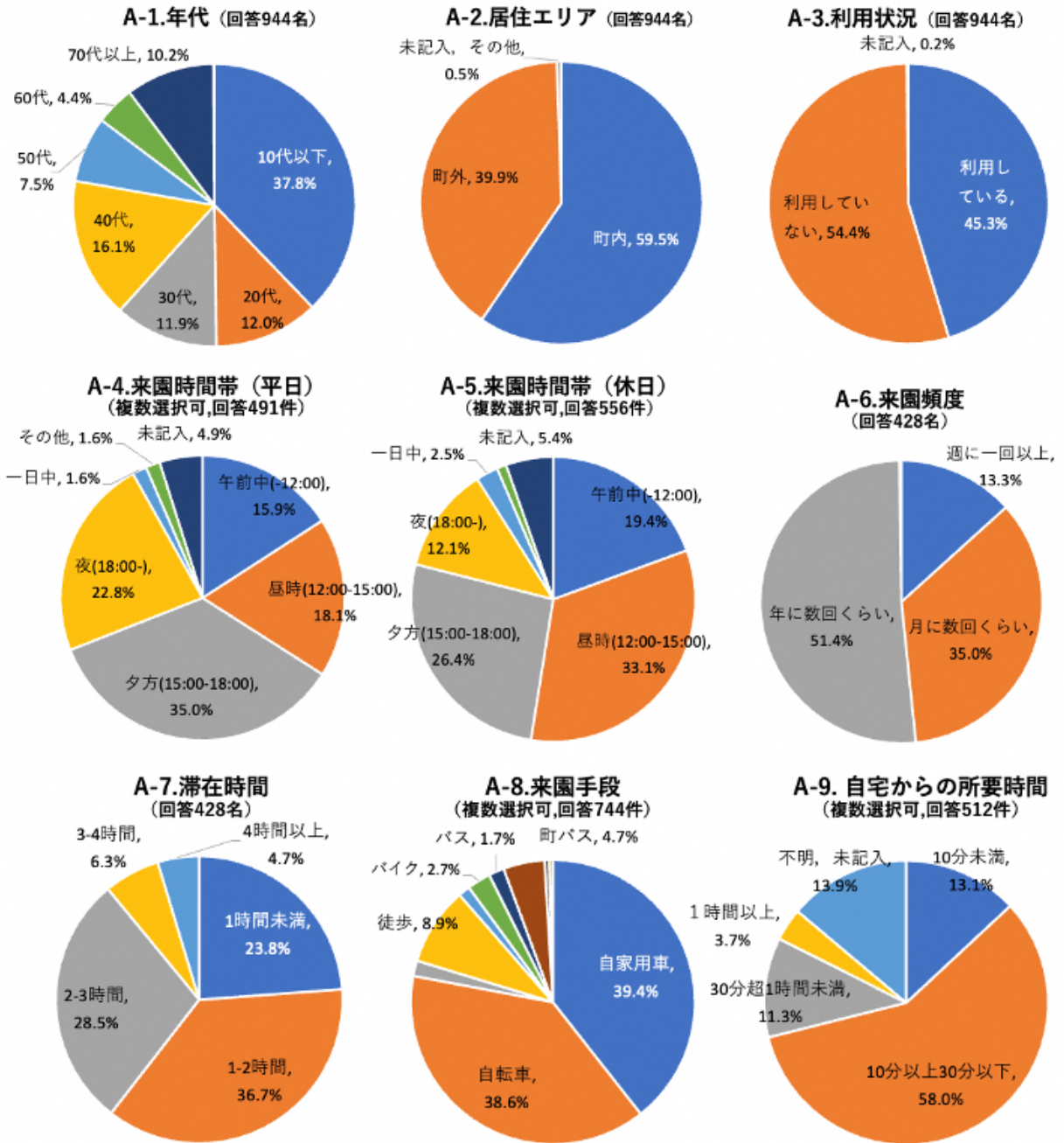
- 一般利用者 293 名、グラウンド利用者 196 名、荒見苑利用者 112 名、中学生 343 名、合計 944 名の回答が得られた。（詳しい内訳は参考資料参照）

2.1.2 一般アンケート（回答者 944 人）

（現在の久御山中央公園利用に関する項目）

- 中学生を除けば 40 代が最多の回答でその他の世代は同程度の回答数であった。
- 平日は夕方から夜にかけて最も利用が多く、休日は昼時の利用が多い。
- 利用する人としらない人は半々だが、年に数回程度しか来ない利用者が半数以上
- 公園のみを利用する人は滞在時間 1-2 時間が主。
- 自動車での来園(39%)に次いで、自転車での来園(38%)も多い。
- 自宅から 10 分以上 30 分以下で来園できる利用者が半数以上。

図表 2-1 一般アンケート（単純集計）まとめ



※A-4～A-9 は中央公園を利用していると回答した人のみが回答

(未来の久御山中央公園利用に関する項目)

- 未来の公中央公園で「必ずあった方がよい」が最多の項目は、「雨や炎天下でも過ごしやすい」「親が見守れ幼児が安心して遊べる」「小学生がたのしく自由に遊べる」「大人も子供も楽しめる」「防災時に役立つ機能がある」「樹木に囲まれた緑豊かな場所で過ごせる」「いろいろなボール遊びが自由にできる場所がある」
- 未来の中央公園であると良い活動の上位三つは「ランチや軽食ができる」「スポーツ・運動」「夜でも飲食ができる」であった。

A-10.未来の久御山中央公園でどんな機能があったほうがよいと思いますか。(回答944名)

	必ずあったほうがよい	できればあったほうがよい	特になくてもよい
Q2-1.気軽に飲食が楽しめる	41.4%	41.8%	16.0%
Q2-2.雨や炎天下でも過ごしやすい	68.1%	27.4%	3.6%
Q2-3.ジョギングや散歩が楽しめる	35.2%	48.1%	15.9%
Q2-4.静かで落ち着いて過ごせる	39.8%	46.9%	12.2%
Q2-5.親が見守れ幼児が安心して遊べる	61.3%	30.1%	7.7%
Q2-6.小学生がたのしく自由に遊べる	53.3%	35.8%	9.6%
Q2-7.畑や花壇で育てたり収穫したりできる	10.6%	30.8%	57.4%
Q2-8.親水空間で幼児が安心して遊べる	27.6%	42.6%	28.5%
Q2-9.マルシェ・遊び等多様な活動ができる	33.8%	43.6%	21.7%
Q2-10.様々なタイプの座る場所がある	38.7%	46.5%	13.9%
Q2-11.夜間でも楽しめる	34.2%	34.2%	30.7%
Q2-12.大人も子供も楽しめる	51.7%	36.8%	10.5%
Q2-13.防災時に役立つ機能がある	59.2%	32.4%	7.3%
Q2-14.樹木に囲まれた緑豊かな場所で過ごせる	48.0%	39.6%	11.5%
Q2-15.いろいろなボール遊びが自由にできる場所がある	48.6%	33.9%	16.6%

アンケート結果から読み取る中央公園の利用者像(将来の利用者を含む)

【現在】

- 近隣の小中学校の生徒が、下校後や休日の日中において、児童広場を利用する。
- 近所の家族連れが休日に、遊具広場を活用する。
- 町内の若者や、町内外のクラブチームに所属する社会人がグラウンドともに利用する。
- 子供を遊ばせるために来る保護者世代。

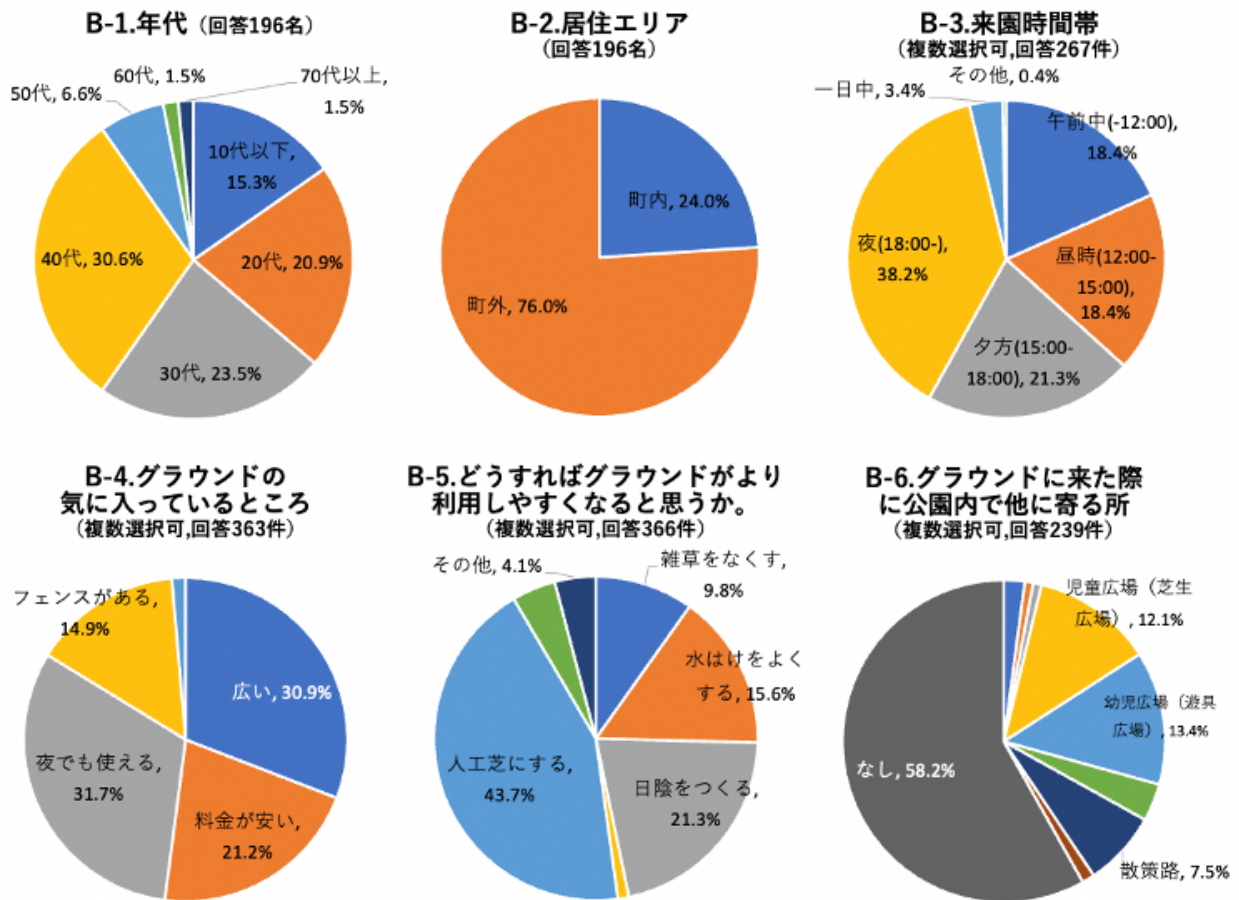
【将来】

- 週末のイベントやマルシェを目当てに町内外問わず来園した利用者による公園内の各機能の相互利用。
- 公園で飲食を楽しむ人。

2.1.3 グラウンド利用者アンケート（回答者 196 人）

- ・ 40代が最多の利用だが、多世代に均等に利用されている。
- ・ 夕方から夜にかけての利用が約6割と最も多く、夜間でも利用できることへの需要が高い。
- ・ グラウンド利用者の半数以上がグラウンドに来た際に他に公園内で寄るところはないと回答。
- ・ 町外からの利用者が全体の3/4と多く、駐車場の需要が高い。
- ・ 設備面では人工芝や日陰、観覧席といった要望が多く見られる。
- ・ 半分ずつ使用することや、フリーで使える時間を作るなど、利用形態に対する要望もある。

図表 2-2 グラウンド利用者アンケート（単純集計）まとめ



アンケート結果から読み取るグラウンドの利用者像（将来の利用者を含む）

【現在】

- ・ サッカー少年団や野球少年団等に所属する 10 代（平日の夕方や休日の昼時）
- ・ 20 代から 40 代の社会人（平日の夜間や休日の午前中）

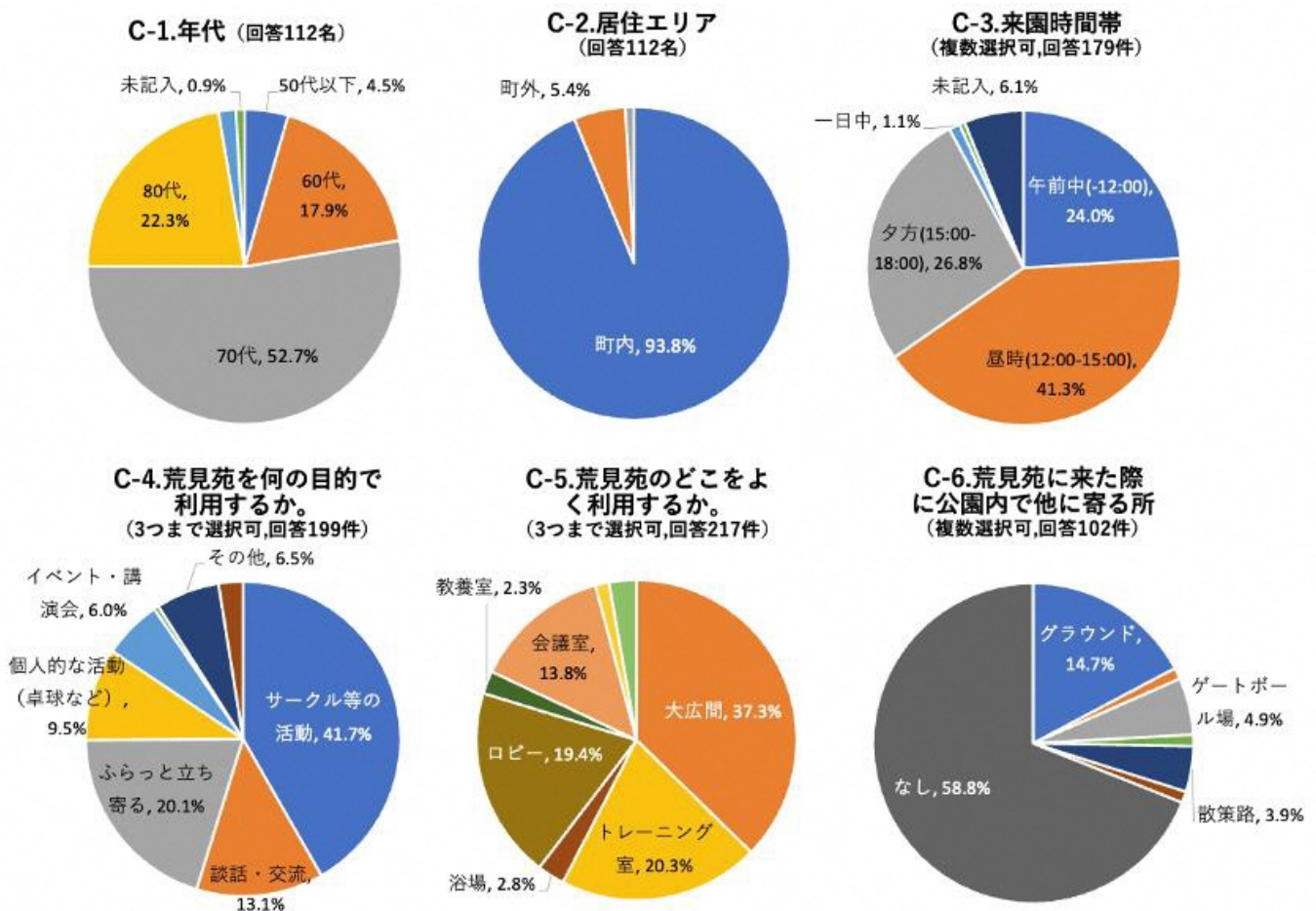
【将来】

- ・ 隙間時間に野球やサッカー以外のスポーツ等を楽しむ子ども、若者。

2.1.4 荒見苑利用者アンケート（回答者 112 人）

- 70代の利用者が最多で、9割以上が町内居住者である。
- 昼時の利用が最多で、サークル等の活動で使用する人が4割以上である。一方でふらっと立ち寄る人も2割はいる。
- 大広間+トレーニング室をよく利用する一方、相談室+浴場はほとんど使われていない。
- 半数以上が荒見苑に来た際に他に公園内で寄るところはないと回答。

図表 2-3 荒見苑利用者アンケート（単純集計）まとめ



アンケート結果から読み取る荒見苑の利用者像

- 荒見苑でのサークル活動に参加する高齢者。
- サークルサークル活動に参加していない高齢者も、当施設での団らんを求めて来所する場合がある。
- 荒見苑に来て、公園は利用しない人が多い。

2.1.5 世代別集計

- 以下では一般アンケートの項目を、10代以下 357 名、20-40 代 377 名、50-60 代 113 名、70 代以上 96 名で世代別で集計した。

【全世代共通の傾向】

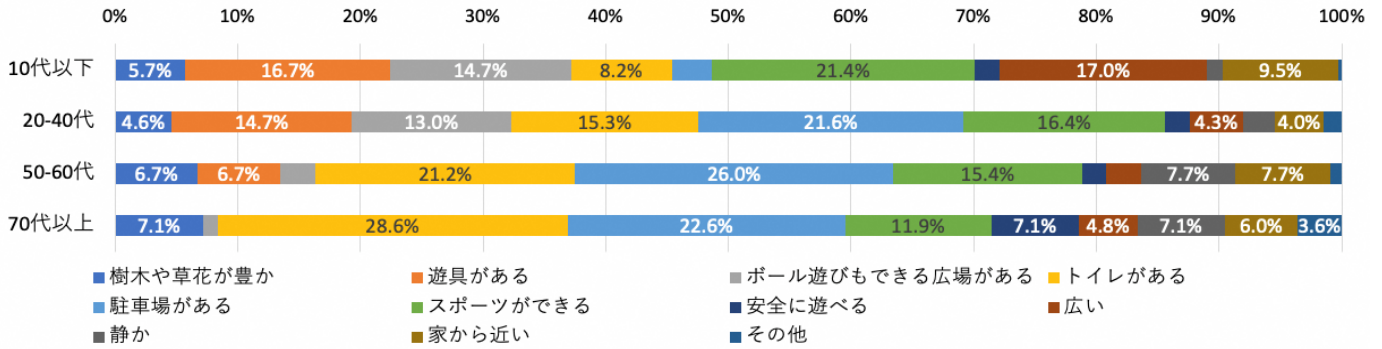
- 現在の久御山中央公園に対して気に入っているところは、「スポーツができる」「トイレがある」「駐車場がある」。(D-1)
- 未来の中央公園において、全世代共通してあった方がよいと回答しているものは「雨や炎天下でも過ごしやすい」「親が見守れ幼児が安心して遊べる」「小学生が楽しく自由に遊べる」「防災時に役立つ機能がある」「大人も子供も楽しめる」、世代間で差があるものは「気軽に飲食が楽しめる」「夜間でも楽しめる」「いろいろなボール遊びができる場所がある」(D-4)
- 未来の中央公園であると良いと思う活動は「ランチや軽食」「スポーツ・運動」の項目であった。(D-5)

【その他の傾向】

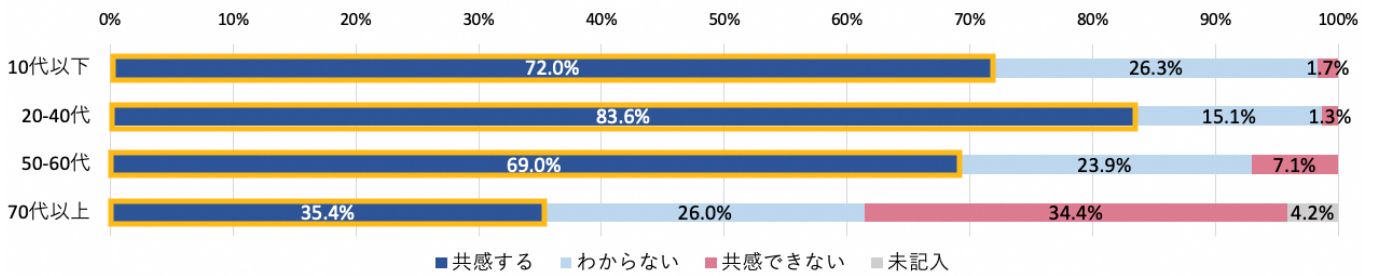
- 現在の久御山中央公園に対して、10-40 代は「遊具がある」ことも気に入っていると回答する人が多い。(D-1)
- 中央公園のリニューアルについては、2/3 以上が共感している。ただし年齢が高いほど共感率は低くなる傾向にあった。荒見苑の多世代利用についても同様であるが、70 代以上は 6 割以上が共感している。(D-2,D-3)
- スポーツ、飲食、多世代が安心して遊べる等の「アクティブ」な項目への評価が高い一方で、「静かに過ごせる」ことも比較的高評価である。(D-4)
- 未来の中央公園であると良いと思う活動について、若い世代は「夜でも飲食」や「BBQ 等の屋外飲食」への回答が多く、高齢者は「演奏やコンサート」への回答が多い。(D-5)

図表 2-4 世代別集計（クロス集計）まとめ

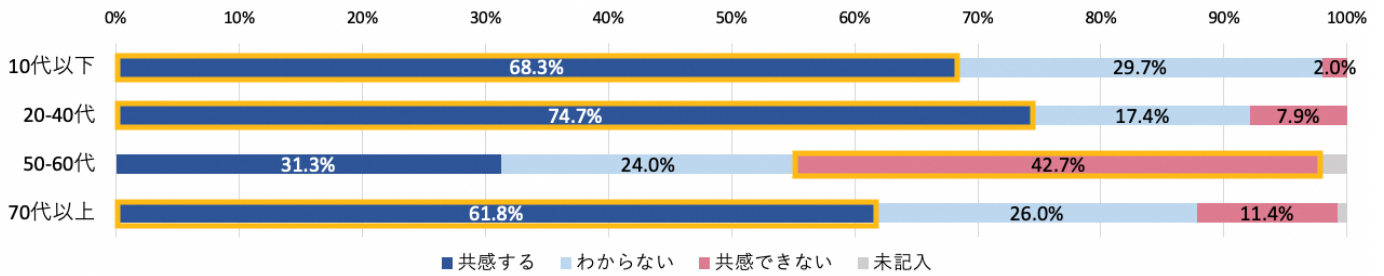
D-1.現在の久御山中央公園の気に入っているところはどこですか。



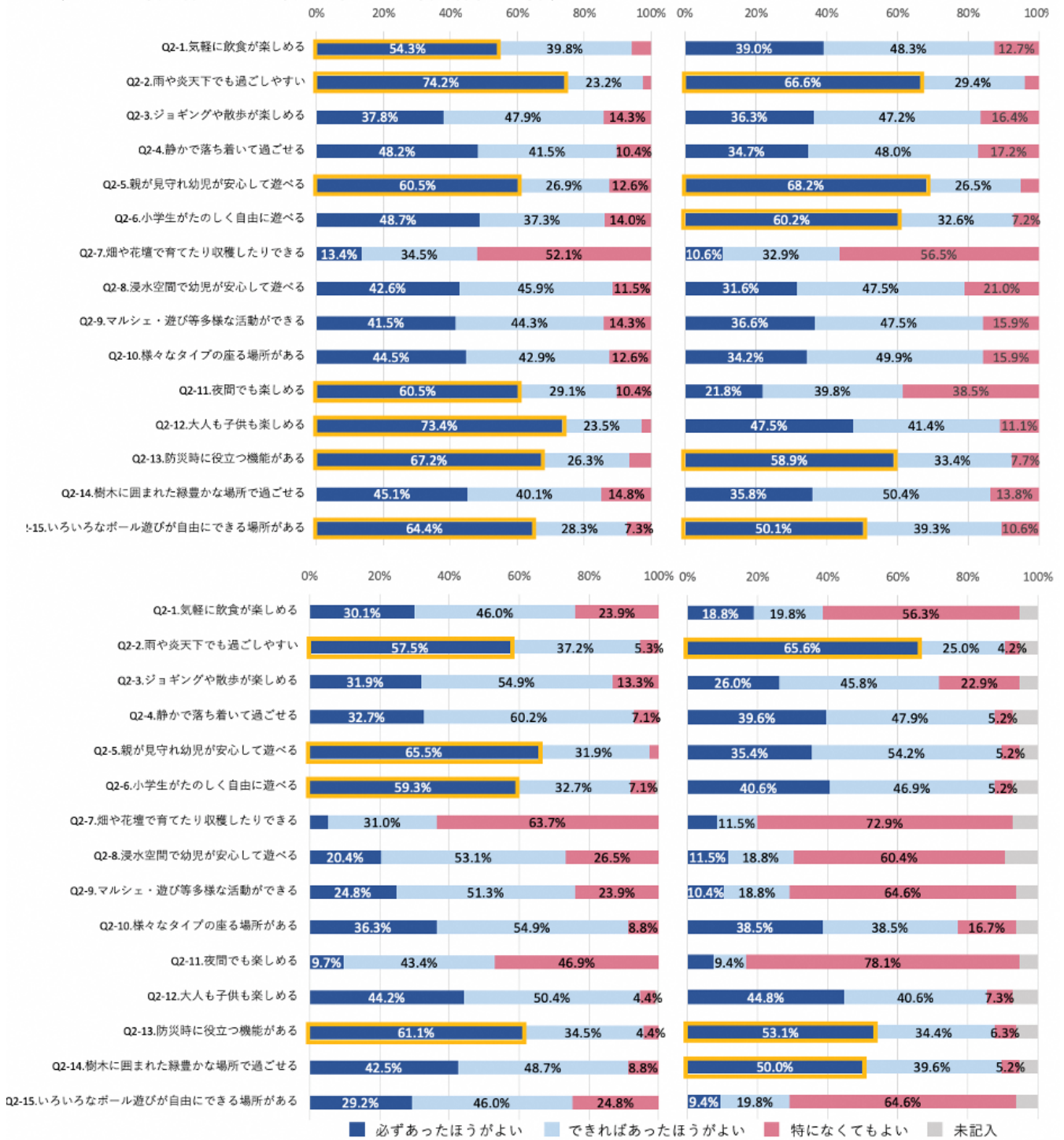
D-2.久御山中央公園のリニューアルの考え方に共感しますか。



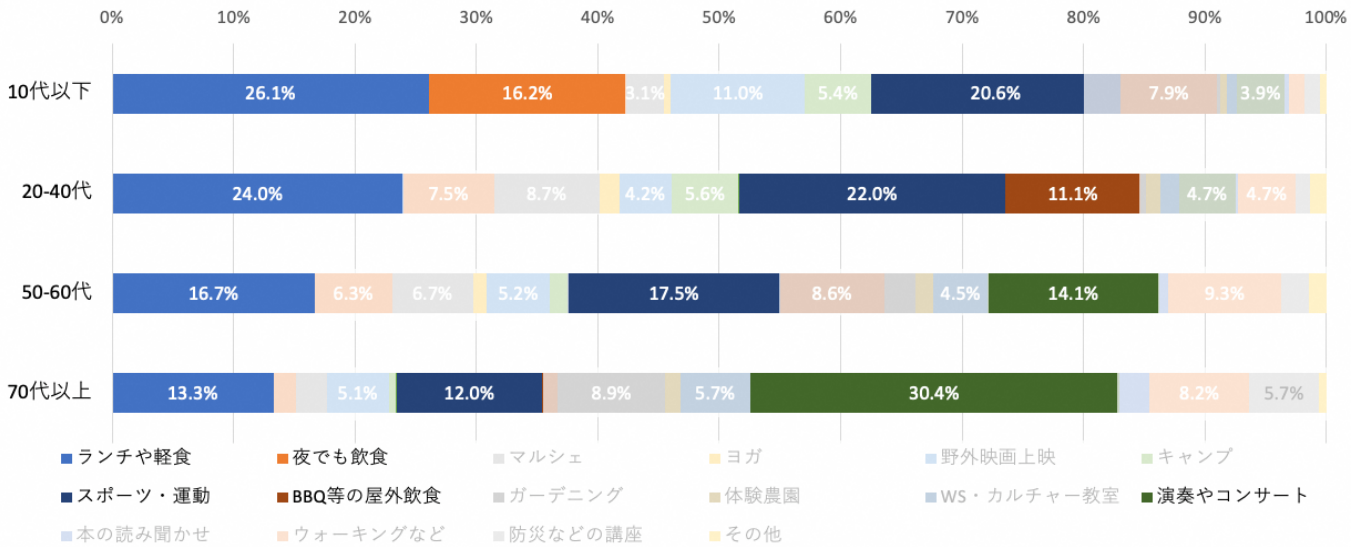
D-3.荒見苑の多世代利用についてどう思いますか。



D-4.未来の久御山中央公園でどんな機能があった方がよいと思いますか。
(左上：-10代 右上：20-40代 左下：50-60代 右下：70代-)



D-5.未来の久御山中央公園であると良いなと思う活動を選んでください。

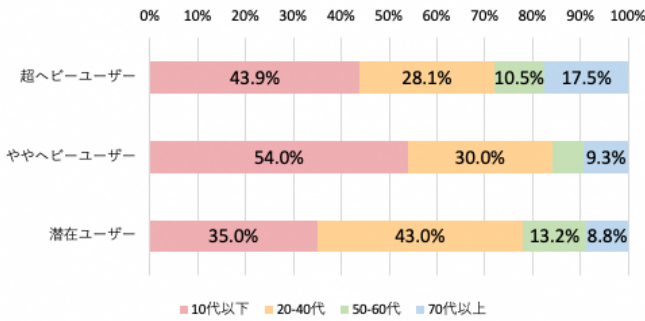


2.1.6 利用頻度別集計

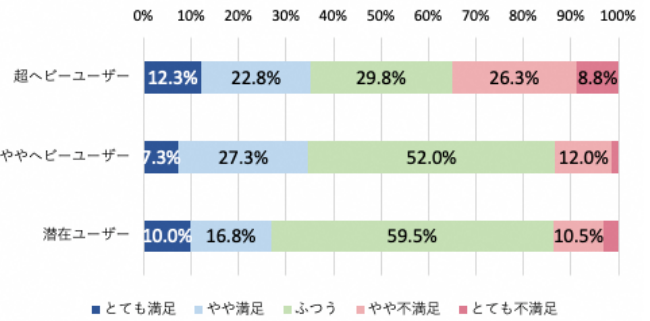
- 以下では、アンケート回答者を「超ヘビーユーザー」「ややヘビーユーザー」「潜在ユーザー」の3種類に分類して分析した。
 - 超ヘビーユーザー（57名）：週に1回以上公園を利用する
 - ややヘビーユーザー（150名）：月に2回程度公園を利用する
 - 潜在ユーザー（735名）：年に数回利用および公園を利用しない
- 全体的な傾向はこれまでの集計とほとんど変わらない。
- 年齢を見ると、超ヘビーユーザーとなっているのは10代以下が最も多いが、70代以上の高齢者の割合も高くなっている。潜在ユーザーとなっているのは、20-40代の層の割合が多いことがわかる。(E-1)
- 現在の公園に対する評価を見ると、公園を利用している人ほど（超ヘビーユーザーになるほど）不満足の高割合が増えている。(E-2)
- 現在の公園のよいと思うところは、ほとんど同程度だが、ヘビーユーザーほど「スポーツができる」ことに対する好印象の割合が高くなっている。一方で潜在ユーザーほど「遊具がある」ことに対して好印象であり、遊ぶ場があれば公園の利用者が増える可能性が高いと想定できる。(E-3)
- 「未来の公園であると良いもの」について、ヘビーユーザーほど気軽に飲食が楽しめることを強く望んでいる。また、潜在ユーザー程マルシェや遊びができる場・ボール遊びが自由に行える場を強く望んでいる印象である。(E-4)

図表 2-5 利用頻度別集計（クロス集計）まとめ

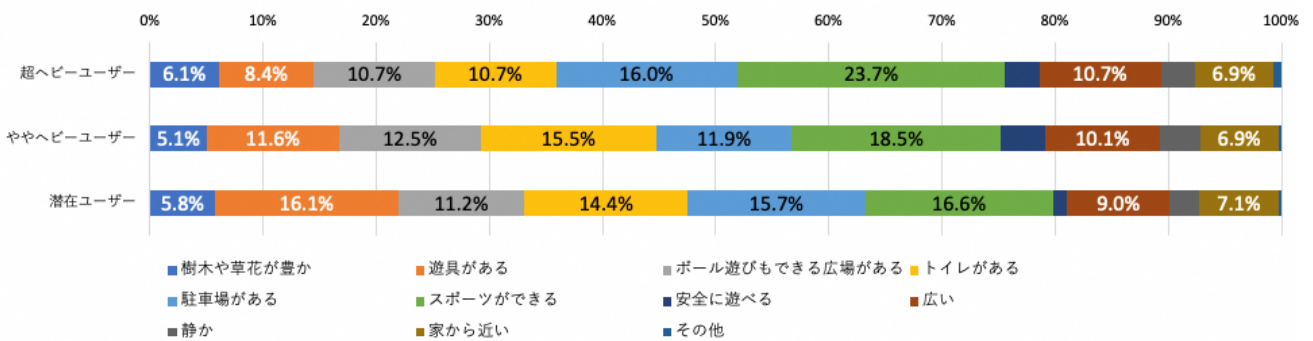
E-1.年齢



E-2.現在の公園に対する評価



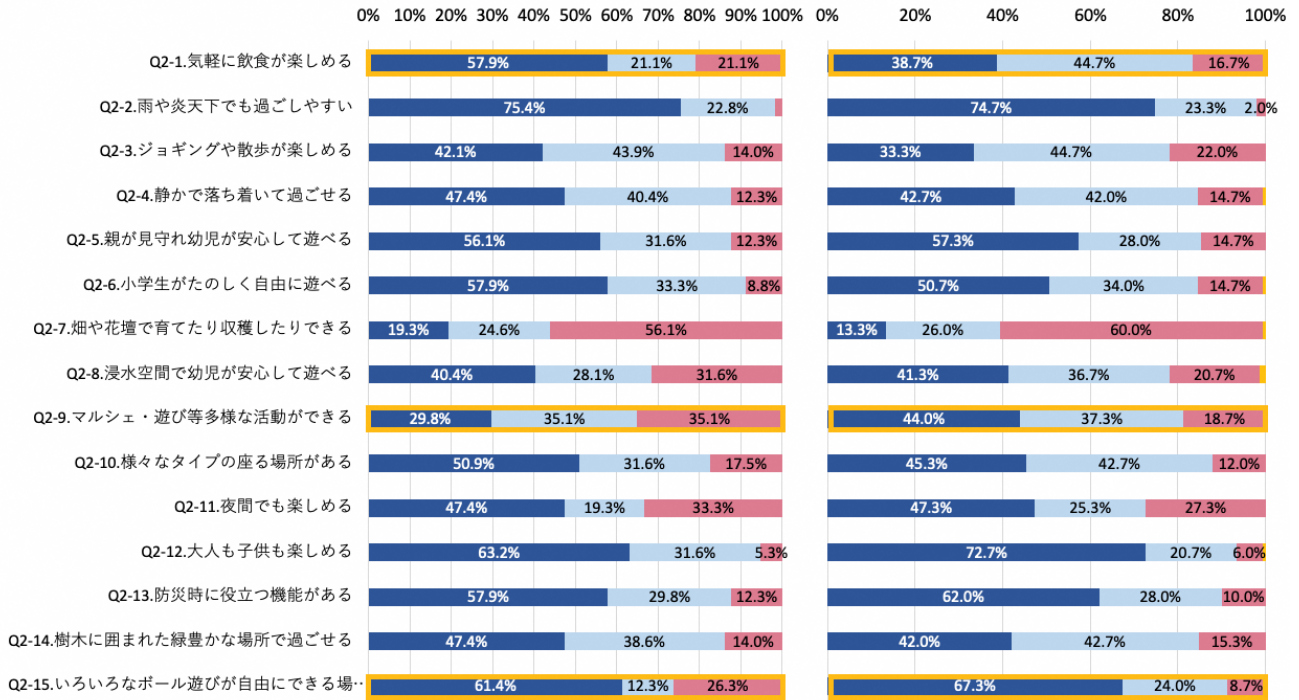
E-3.現在の久御山中央公園の気に入っているところはどこですか。



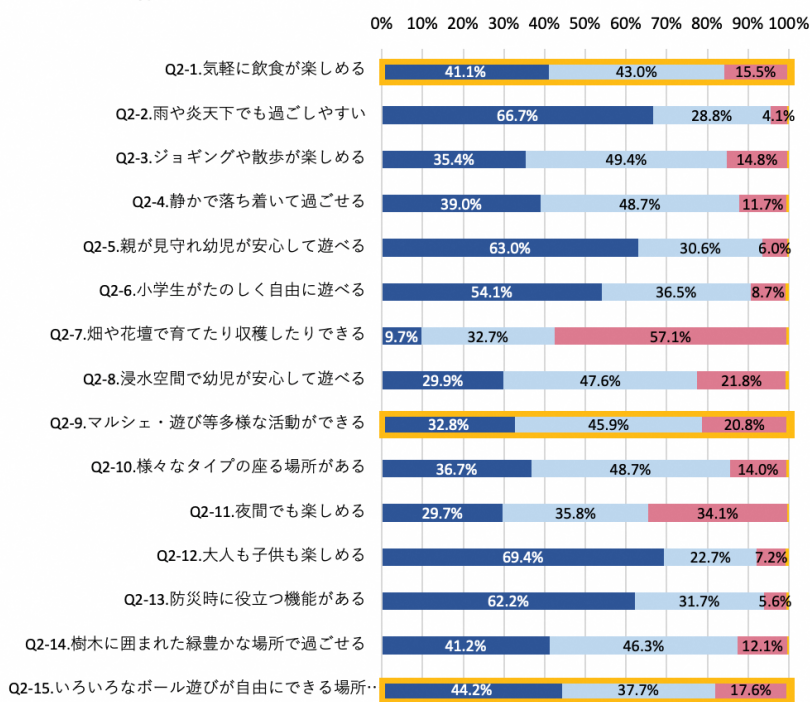
E-4.未来の久御山中央公園でどんな機能がよかった方だと思いますか。

■ 超ヘビーユーザー

■ ややヘビーユーザー



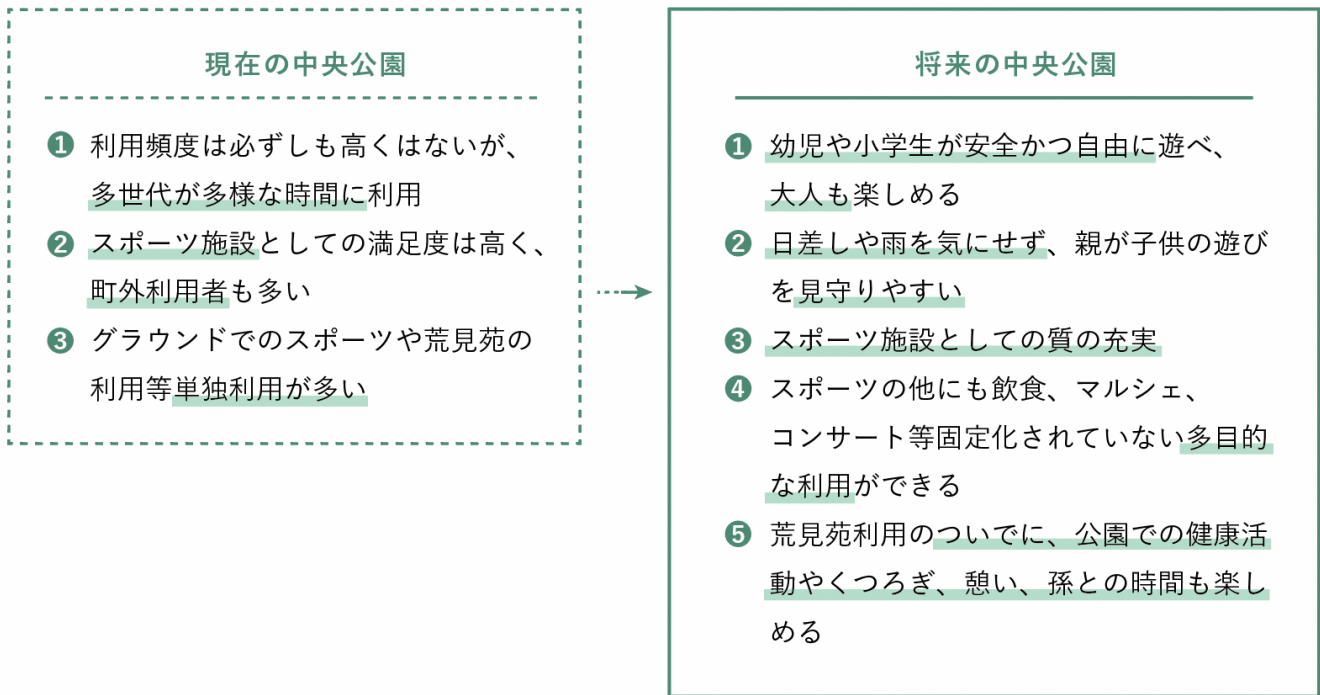
■ 潜在ユーザー



2.1.7 アンケートから得られる示唆

- 久御山中央公園は、現状は利用頻度こそ多くないが、多世代が多様な時間に利用している。（平日は昼間は高齢者、夕方からはグラウンド利用者が来園している。休日は昼間に多世代の利用者）
- 公園に来た際はグラウンドでのスポーツ利用や荒見苑でのサークル活動のような単独目的の利用が中心ではあるが、将来への要望を見ると、スポーツの他にもカフェやBBQなどの飲食、マルシェ、コンサートを公園でやってみたいと回答している。このことから、グラウンドや荒見苑などの特定の目的を持っていなくともふらっと立ち寄れるような居心地のよい、多目的に使えることが望ましいと想定される。
- また、スポーツ施設としての利用者の満足度は非常に高く、今後もスポーツや体を動かす健康的な活動のための場所は求められると想定できる。
- 町外からの来園者への配慮（駐車場等）や人工芝などに整備すればさらなる来場者が期待できる
- 全体的に、幼児や小学生が安全に自由に楽しむことができ、かつ大人も楽しめることができる場を求める声が多いことから、用途を限定しすぎない多世代が活動できる場の確保が求められる。
- 雨除けや日除けの場所のニーズも非常に高く、子供を遊ばせる親が見守りやすい施設の工夫も必要である。
- 荒見苑利用者に関しては、施設現状維持の傾向がありつつも、高年齢全体での志向としては、公園での健康活動やくつろぎ、憩いや子ども（孫）との利用にも興味を示す人も多い。

図表 2-6 アンケートから得られる示唆



2.2 再整備検討委員会における主な意見

2.2.1 再整備検討委員会における主な意見

再整備検討委員会において、活発な意見交換が行われた。久御山中央公園の再整備の方向性に関する主な意見は以下の通り。

<再整備の方向性(全体的な考え方)>

- アクティビティファーストで考えたい。新しいアクティビティが生まれ育ち、使い続けられる公園になるとよい。
- 最近のトレンドである用途を限らない公園の利用を考えていきたい。
- 安心安全かつ、心が豊かになるような、バリアフリー社会を目指した明るく気軽に立ち寄りやすい公園整備が理想的。

<空間の使い方>

- シームレスで一体的な利用との考え方が良い。
- 完璧な公園を作るのではなく、住民が自由に考えて自由に活動できるような公園にしたい。仕掛けづくりの段階で止めて貰った方が、住民の主体性・多様性が生まれやすい。
- 新しい生き方の提案、新しい発見、情報交換の場になってくれるといい。
- ルール作りを工夫し、バランスのよい公園になれば多くの人に利用してもらえる。

＜整備すべき機能＞

- 面積の限られた公園なので、久御山町らしいインパクトのある、きらりと光る特徴があると、流行り廃りに影響されない公園になる。
- スポーツが出来る良い場所だが、雨が降るとほとんど使えない。水はけを良くする等、使いやすい公園となつてほしい。
- 中央公園に行けば、子どもと一緒に楽しく安心して過ごせるような場所になると良い。

＜荒見苑＞

- 高齢者は人を良く見ている。荒見苑が注意喚起の発信源となり、高齢者が子どもの見守りをしやすくなるとよい。
- 荒見苑利用者と公園利用者の入口やエリアを分ける等、既存の利用者への配慮が必要。

＜中央公園へのアクセス等について＞

- 多くの人に来てもらうには、公園だけにスポットを当てるのではなく、人が安全にアクセスできる道路・水路にすることが大切。
- 「うちにわ＝まちづくりセンター、そとにわ＝中央公園」の考え方は面白ので、役場から公園、町内各所までのつながりが感じられるとよい。

＜中央公園の活用について＞

- 公民連携の次の民民連携が重要。企業と住民の連携に加え、周辺住民も含めた交流が生まれるとよい。
- 中央公園や荒見苑がまちのにわ構想の農工を発信する拠点やハブとして、野菜の直売や農業体験の起点となるとよい。
- 住民団体や町が一生懸命に取り組んでいることを、若い世代に知ってもらい、興味を持ってもらえるよう情報伝達をすることが重要。
- 住民団体の活発な活動の雰囲気大切に、もっと多くの人々が町の活性化に協力するようになるとうい。

2.2.2 再整備検討委員会における主な意見から得られる示唆

- 様々なアクティビティを誘発し、長い間使われ続ける公園とするためには、施設等ではなく、活動に着目（アクティビティファースト）して検討することが望ましい。
- 自由で多用途な公園活用ができるように、ハーフビルドの考え方を取り入れた空間整備が適している。
- 限られた面積の中で特徴的な公園になるような工夫をしつつ、スポーツや子どもの遊び場として必要な機能を整備する。
- 公園内唯一の屋内施設として、既存の荒見苑利用者に配慮しつつ、荒見苑を活用することへの期待が高い。その場合、荒見苑利用者が公園利用者の見守り役となることも考えられる。
- ハード整備に留まらず、新しい久御山町での暮らしの提案や、町や住民同士の情報交換の場に繋がるような使い方が求められている。
- 中央公園が「そとにわ」として町民に親しまれるように、町内各所から容易かつ安心してアクセスできるような動線の確保も重要。
- 中央公園が、住民や周辺企業及び町等の多様な主体の活動・連携の拠点として機能し、町全体の活性化に寄与することも期待されている。

第3章 近年の公園ニーズについて

近年、社会の情勢変化や新型コロナウイルス等の影響により公園に求められる役割も変化している。ここでは、第1章および第2章から読み取れるあり方やニーズを意識した上で、全国にある事例を参考に、さらなる公園ニーズを洗い出す。

3.1 事例

3.1.1 事例1：イケ・サンパーク（東京都豊島区）

敷地は元造幣局の跡地であり、町民会の活動からスタート。

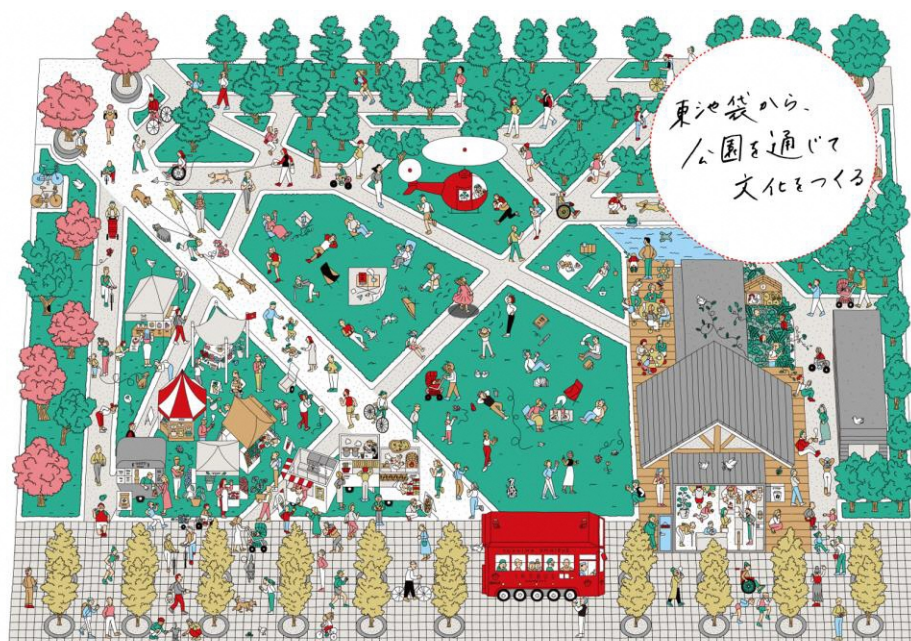
「公園から街が変わる。」をコンセプトに単なる広場としての公園ではなく、多彩な魅力が溢れるこの地域で、3つのテーマに関する活動を行い、利用者と一緒により良い暮らしを育む新しいカタチの公園になることを目指している。

1) 公園を起点に循環を生む／2) 多様性を楽しめるコミュニティ／3) 小商いや小さなチャレンジを応援

また、「公園がまちを守る」と題し「防災公園」としての機能も持ち合わせている。季節を彩るサクラやイチョウだけでなく、火災の延焼を防ぐシラカシが立ち並び、災害時に備えた備蓄倉庫や、消火用水確保のための深井戸、非常用トイレなどが整備されており、発災直後は一時避難場所として、その後は地域だけでなく、豊島区全体の防災活動を行うヘリポート・物資集積拠点として機能。

大きな災害だけでなく、目に見えないウイルスのような脅威にも、みんなで協力して取り組んでいくことが大事と考え、公園がその「協力」を育むことにも役立てることを目指している。

図表 3-1 イケ・サンパーク（東京都豊島区）



(出典：<https://ikesunpark.jp/>)

■注目すべき工夫

【多様な業態を展開する小型店舗 KOTO-PORT (コト・ポート)】

新しく公園で事業に挑戦したい方々の受け皿として、小型店舗を運営。この店舗では、飲食や物販など多様な業態が展開されている。

図表 3-2 イケ・サンパーク内のコト・ポート



(出典：<https://tabidialogue.hatenablog.com/entry/2020/10/25/100000>)

【コミュニティガーデン】

人々が花や野菜、ハーブなどの食べものを育てることができる共有のスペース。似たような取り組みに「市民農園」があるが、区画ごとに割り当てられた畑を別々に管理する市民農園と異なり、みんなで1つの菜園を耕し、収穫した野菜もみんなでシェアする。

「できることから都市での自給をめざす」をテーマに日々の水やりや雨水を使い、園内の落ち葉から堆肥を作るなどその過程をみんなで学ぶ場としている。近隣で暮らす方や野菜を育てることに興味のある方が集まり、地域のつながりが深まるきっかけ、さらには食育としても親子と一緒に学べる機会づくりを目指している

図表 3-3 イケ・サンパーク内のコミュニティガーデン



(出典：<https://ikesunpark.jp/>)

【ハナクサガーデンツアー】

豊島区内で相次いで整備された複数の公園をリンクさせながら、その他池袋を拠点とする商業施設等も連携し、池袋の新しいイメージを描き出す取り組み「IKEBUKURO HANA CIRCLE PROJECT (イケブクロハナサークルプロジェクト：通称ハナサクプロジェクト)」が行われ、その一環としてイケ・サンパークのスタッフが園内の植栽の魅力を紹介、さらに循環型園芸を実践中のコミュニティガーデン

でエシカル苗の苗植え体験を行った。昼食はイケ・サンパーク内のカフェで、“循環”をテーマにした特別ランチを食べ、別施設へ移動するなどまちなかを使ったプロジェクトも展開されている。

図表 3-4 ハナクサガーデンツアーの様子



(出典：<https://ikesunpark.jp/>)

【ファーマーズマーケット】

区民、地元の地域や商店街、生産者、交流都市とのつながりを生むマーケットを目指し、単なる売り手と買い手でなく、生産者と消費者がつながる場、新たな発見や出会いがうまれる豊島区の新たな台所として、マーケットを展開している。マーケットは3つの柱を立てて運営されている。

- ・コミュニティ：生産者と消費者、人とまちがつながる体験の場
- ・循環：区民の毎週末の楽しみとなる、日常や都市のライフスタイルを彩る場
- ・スタートアップ：次世代に向け、誰もがチャレンジする場

3.1.2 事例2：安満（あま）遺跡公園（大阪府高槻市）

広さ約22ヘクタール、甲子園球場5つ分の広大な敷地には、国宝級の歴史資産である弥生時代の「安満遺跡」を保存・活用し、防災機能も兼ね備えた豊かな空間が広がる。

広い敷地を生かし、市の防災拠点にも使える設備を作ろうと、専門家を交えて構想を練り、災害時の拠点となるパークセンターや耐震性貯水槽、大きな防災倉庫などを備えた。

災害は想定外のことも多いため「作り込みすぎない」ことも重要視。史跡ゆえに、全面を掘り返して工事ができないことを逆手に取り、少しずつ整備を進める「ハーフメイド」という考え方を取り入れ、それがうまくマッチして、防災公園としても、市民と一緒に育て続けていくという目的も叶えられた。

安満遺跡公園では開園前（2014年度）より市民活動プロジェクトとして公園計画地で活動したい市民メンバーの団体が活動をしていた。「市民とともに育てつづける公園」をコンセプトに、開園とともに団体は「安満人倶楽部」となり、彼らが主となり、公園を訪れる方々とともに楽しめるイベントやプログラムを展開しながら、公園の活性化に貢献している。

図表 3-5 安満遺跡公園（大阪府高槻市）



(出典：<https://www.seibu-la.co.jp/park/ama-sitepark/>)

■注目すべき工夫

SAKURA 広場の「大屋根」

一次開園後の利用状況を見て、工事に取り入れた。「イベントの時に横断幕を吊るしたい」「日除け、雨よけになる屋根がほしい」という声が寄せられたため、いろんな活動ができるよう、開け放った大屋根となった。

図表 3-6 安満遺跡公園内の SAKURA 広場の「大屋根」



(出典：https://www.huffingtonpost.jp/entry/ur-greeninfra_jp_61a85368e4b0f398af1c539e)

安満人倶楽部

倶楽部の門戸は常に開いており、8つのグループ（歴史・自然・古代米・あまプレーパーク・防災・ペット・あまマルシェ・竪穴住居）が稼働しており、グループ同士が連携するなどの関係構築も意識

し、市民が楽しめることを大切にした運営をおこなっている。入会則が整備されており、支援や協力をお願いするなど活動が持続するように取り組んでいる。

図表 3-7 安満人倶楽部の様子



(出典：<https://amando-club.jimdofree.com/>)

3.1.3 事例3：大蓮公園（大阪府堺市）

昭和46年に開設された、公園面積約15万平方メートルの風致公園。全体面積の3分の1を占める大蓮池（おおはすいけ）を中心とした丘陵地に位置し、自然を保存した公園。

地域住民を主体とした幅広い世代が活用できる公園空間を生み出し、旧泉北すえむら資料館や自然を活かす形で次世代にとっての「OUR HOME PARK(ふるさとの公園)」を創造し、2019年4月関西初のPark-PFI（公募設置管理制度）となる「SUE PROJECT」がはじまった。立ち上がりの早さだけでなく、取り壊し寸前だった旧公共施設をコミュニティの拠点に変え、住民主体の週末マルシェを企画し、自然豊かな敷地を生かしてキャンプサイトやパンプトラックを展開するなど、ソフトとハードの両面における運用の成功例として注目を集めている。堺市・市民・民間企業が協力し、公園と建物の再整備を行い、泉北エリアの活性化を推進している。

「さまざまな過ごし方ができるのが大蓮公園です。ぜひあなただけの公園の楽しみ方を見つけてください。」とメッセージを発信し、公園の過ごし方を提案している。

図表 3-8 大蓮公園（大阪府堺市）のマップ



(出典：<https://ohasu-park.com/about>)

図表 3-9 大蓮公園（大阪府堺市）



(出典：<https://ohasu-park.com/about>)

■注目すべき工夫

大阪市に本社を構えるアウトドアブランド DOD とコラボしたカフェ「design ohasu days」(写真左) 市民団体が運営する私設図書館。児童書籍からアウトドアまで幅広いジャンルの書籍が揃う。(写真右)

図表 3-10 コラボカフェ「design ohasu days」(左) 私設図書館 (右)



(出典：<https://designohasudays.com/library/>)

公園でキャンプできたり、気の合う仲間とルーフトップでBBQ、カフェで本を読んだり。マルシェを野菜やパンを買って公園ピクニック。住まいの相談やワークショップ参加したり。さまざまな過ごし方ができるのが大蓮公園です。

図表 3-11 高低差を活かした自然と調和したデザイン



(出典：<https://www.lmaga.jp/news/2020/08/145345/>)

敷地の高低差を遊びの場所として有効利用し、自然と調和したデザインとなっている。

図表 3-12 公園内の遊具の様子



(出典：<https://senboku.jp/play/parks/191/>)

■P-PFI 制度事業公募時点から始まっている事業者の取り組みと効果

既に地域で活動している団体などにヒアリングを行い、図書館の運営に興味がある人に出会い、施設内に私設図書館を設置した際の選書やメンテナンス、読み聞かせなどを依頼。自転車活動団体が、近隣に気軽に自転車で遊べるところがない悩みを抱えており、地域の子供たちが小さいころから自転車で遊べるオフロードコースを手作りで作りたいという夢をかなえるために、公園内に初心者向けオフロードコースを事業提案。ボランティアが多く運営の負担を低減する為に初期投資は事業者側で行った。公園での市民活動団体を立上げ、事業者と行政がサポートを行いながら、公共空間で住民が住民を楽しませる場の土台が徐々にできつつあり、コミュニティ形成による公園再生だけでなく、ニュータウン再生までが意識された取り組みとなっている。

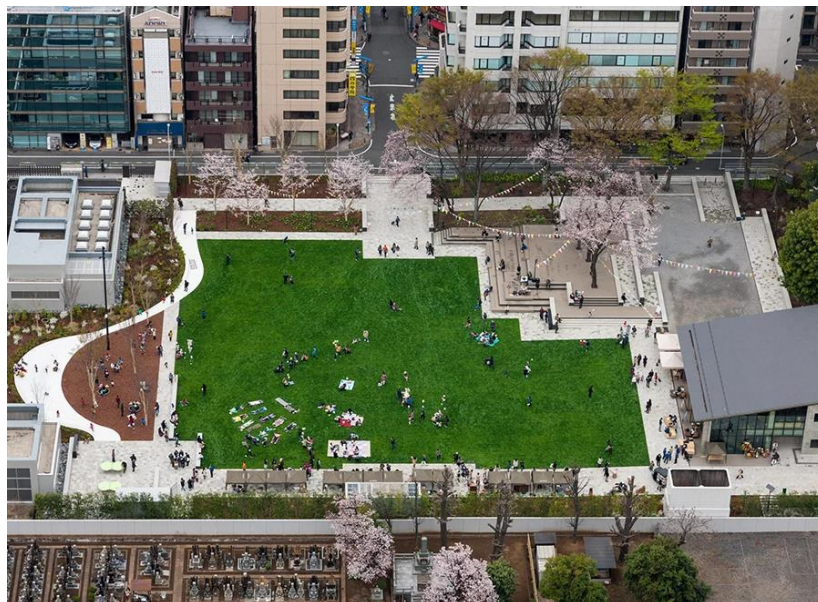
3.1.4 事例4：南池袋公園（東京都豊島区）

以前は治安が悪く、近隣住民ですら寄り付かない場所だったが、リニューアルで毎日多くの人を訪れている。公園中央に植え付けられた芝生は夏向きの品種と冬向きの品種を交互に育て、一年中緑が広がっているほか、ソメイヨシノやヤマザクラなど約 2500 本の草木も植えられている。公園複合施設では、地元のカフェレストランが営業するほか、帰宅困難者対策備蓄倉庫なども備えられている。

公園の維持管理費は、東京電力変電所と地下鉄有楽町線の地下占用料およびカフェレストラン事業者からの建物使用料で賄い樹木の剪定などハード面は区が受け持つが、公園の具体的な利用方法やルールづくりは地域の関係者で作る「南池袋公園をよくする会」に任せる方式を取り入れた。

2017 年度グッドデザイン賞^[3]、および照明学会照明デザイン最優秀賞^[4]、2018 年日本造園学会賞、2020 年 JFMA 賞優秀ファシリティマネジメント賞をそれぞれ受賞。

図表 3-13 南池袋公園（東京都豊島区）

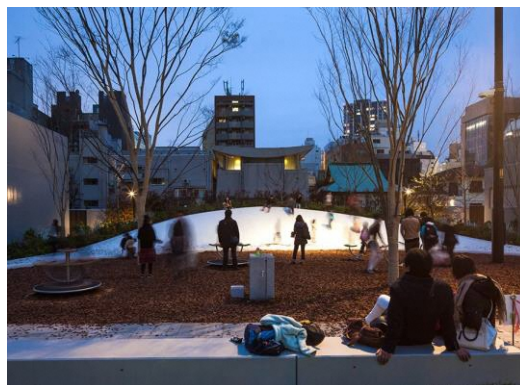


(出典：<https://www.landscape-plus.co.jp/minamiikebukuro/>)

■注目すべき工夫

親子連れが利用できるような遊びの場として、複合遊具ではなく小山を利用した滑り台、回転遊具などを設置し交流や会話の生まれる遊び場としている。

図表 3-14 小山を利用した滑り台



(出典：<https://parkful.net/2016/05/minami-ikebukuro-park/>)

3.1.5 事例5：籠田公園（愛知県岡崎市）

昭和33年に整備、地域の人の憩いの場としてだけではなく、イベントも多く開催され、多くの人達に親しまれてきた公園。「つどい・つながり・つづく」をコンセプトに暮らしの質の向上やエリアの価値を高めるための場所として再整備公園内には複合遊具や噴水など子どもの遊び場が充実しているほか、ステージや屋根のある休憩所など様々な設備があるので幅広い楽しみ方ができるなど、「岡崎の顔」となる場所を目指している。

図表 3-15 籠田公園（愛知県岡崎市）



(出典：<https://www.kagodapark.com/>)

■注目すべき工夫

公園西側にある「まちの縁側」空間

沢山の机や椅子が設置、好きな場所に移動して使用でき、散歩で疲れた際の休み処、読書、仕事と多様な使い方をイメージ。シンクがあり、簡単な料理を作ったりするなど自由な過ごし方もできる。屋根があり日陰ができる場所も多くあり、日差しが強い日でものんびりと過ごすことができる。夜になると柔らかな灯のもとで、昼間と違った雰囲気を楽しめる。

図表 3-16 ゴムチップマウンドと噴水



(出典：<https://www.city.okazaki.lg.jp/1550/1568/1638/p024385.html>)

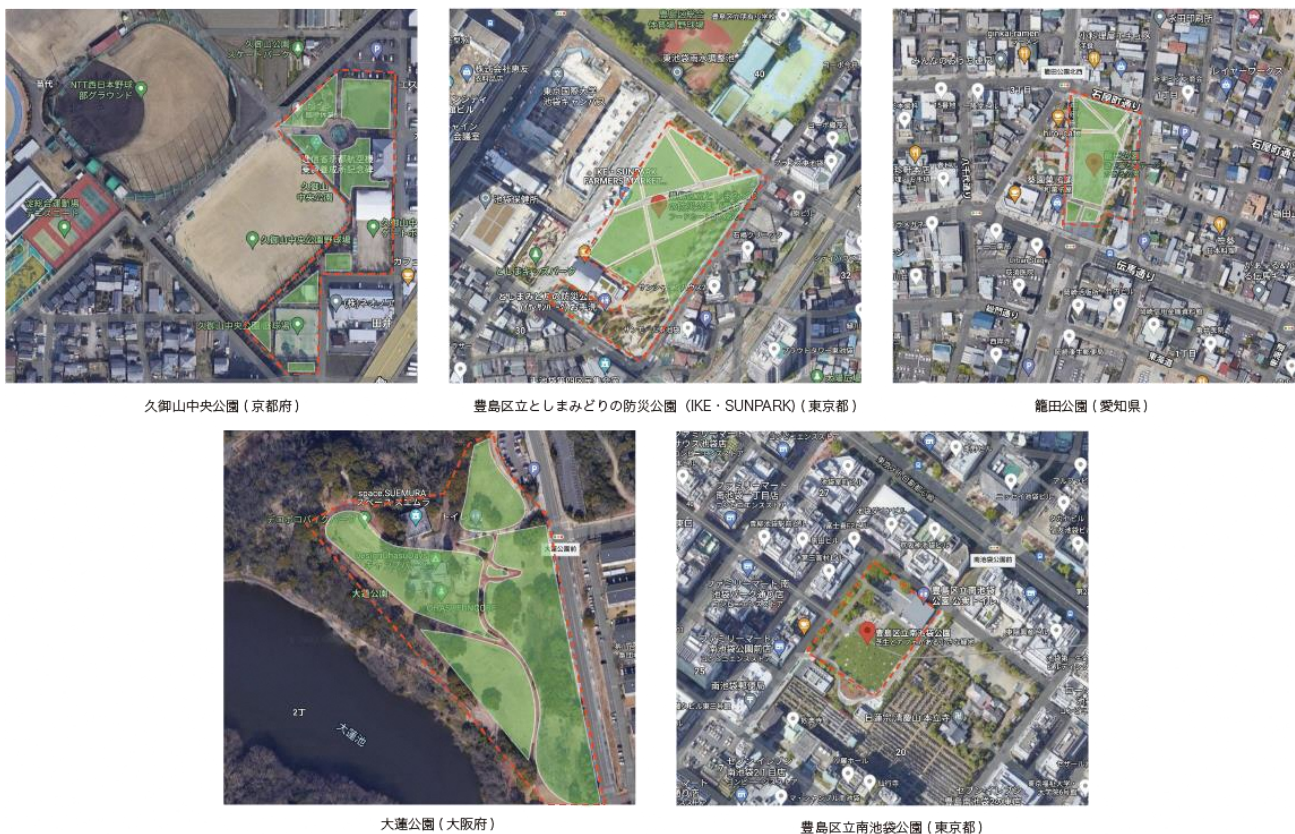
ゴムチップマウンドと一体的に整備された噴水があり、夏場は水遊びが楽しめる。噴水の動きのパターンも多様。噴水は水道水を使っており安全で、噴水の近くに複合遊具を設置し、のぼる・つかむ・わたる・はしるなどが様々な動きが同時に体験できる。

3.2 他事例から読み取るべき示唆

3.1 に挙げた他事例は、規模も立地条件も様々である。しかし、久御山中央公園も決して小さすぎはせず、工夫の余地は十分にある。

図表 3-17 久御山中央公園と他公園との比較

他公園（芝生広場あり）との面積比較（※Google マップ 同スケールにて比較）



久御山中央公園再整備の方向性を考えるに当たり、これら他事例からは、以下のような示唆を読み取ることが出来る。

つながりや交流、チャレンジの場

公園は、多様性やチャレンジ、学びの場を提供し、そこからつながりや交流を生み出すことが出来る。マルシェや小型店舗の展開は、テストマーケティングとしての場所としても活用される（事例1）。また、芝生広場、遊具、飲食等様々な機能を配置することで、親子連れが利用し、交流や会話を生み出すことも期待される（事例4）

自由で多様な使い方

ステージや屋根のある休憩所等は居心地の良さを提供し、公園での幅広い自由な過ごし方に貢献し得る（事例5）。また、ハード・ソフトを巧みに組み合わせることで、地域住民を主体とした幅広い世代が活用できる公園空間が形成される（事例3）。

ハーフビルド

作りこみすぎない「ハーフビルド」の整備は、再整備後も利用目的に応じた柔軟な対応が可能となり、多様な住民活動の可能性を広げる手法として期待される（事例2）。

高低差の利活用

公園内の高低差は、しばしばネガティブな要素としてとらえられがちだが、逆に高低差を活かし遊び場をつくったり、自然との調和を図ることも出来る（事例3、4）。

いつものものもの

防災面に関しても、近年は公園の役割が期待されている。いつも使っている場所として公園があり、そこでのイベント等を通じて防災が学べ、その積み上げの先にいざというときの場所として防災に活かされると言う視点は重要である（事例1、2、4）。

いまある活動をつなぎ、新たな活動を生み育てるマネジメント

公園をフィールドにしている既存の活動や団体とつながり、現状を把握した上で、求められているものの足りないものを洗い出し、関わりを継続しながら、今は見えていない新たな活動がうまれる状況につなげていくことが重要である。キーワードは「人」で、当事者性の高いひとりひとりを発見、声をひろいながら、得意分野を発揮する人、サポートする人など役割分担をイメージした運営体制を構築、アップデートしていく必要がある（事例2、3）。

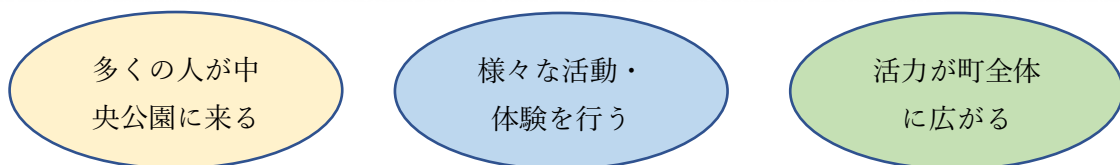
第4章 再整備のコンセプト

4.1 再整備のコンセプトと基本的な考え方

■コンセプト

～暮らしを豊かに 日常を育む 久御山マチニワパーク～

多様な活動、出会い、発見、体験等を通じて利用者の日常生活に彩りを添え、町全体の活力を育む「畑」



※野菜の成長のイメージでこんな絵を描きたい

■再整備に当たっての基本的な考え方

施設・設備（ハード）だけではなく、これを上手に使う工夫（ソフト）も組み合わせ、使う人の変化に合わせて、使われ方も進化していけるような柔軟性を持った公園とする。

- ・ 来たくなる公園：これまでの利用者はもちろん、これまでのポテンシャルユーザーも訪れ、リピーターにしてしまう魅力のある公園とする。
- ・ 長居したくなる公園：スポーツ、遊ぶ、散歩する、同世代とのサークル活動等、個別目的だけでなく、「せっかく来たのでもう少しいたくなる」公園とする。
- ・ 拠点となる公園：スポーツをはじめ、健康づくり、多世代交流、住民主体のイベント等、様々な活動が生まれ、育まれる拠点とする。
- ・ 安心安全な公園：やりたいことが安心して出来、万が一の時にも役に立つ公共空間とする。

上記を踏まえ、再整備に当たっては、「自由度が高く」「多様な使い方」が出来る、「作りこみすぎない公園」を目指す。そのため、以下ではまず、アンケート結果等を参考に、再整備後の公園の具体的な使い方の事例をいくつかのシーンとして設定する。その上で、これらの使い方を実現するために必要な機能及び施設等について抽出を試みる。

4.2 利活用のイメージ

以下では、各年代に多かった関心や使い方を中心に、8つの想定ケースを設定する。

■ ケース1：タイトル【休日にまったりと】

- 利用者：お父さんお母さん（30代）と娘2人（3歳、1歳）
- 時期：5月
- 時間帯：休日の夕方
- 利用頻度：月1～2回

<公園利用のきっかけは？>

家族でランチをした後、イオンモールでショッピングする予定だったんですが、子どもが遊びたいと駄々をこね始めたため、遊具がたくさんある中央公園に来ました。

<どのような利用をしていますか？ 中央公園の良いところは？>

- ・中央公園はいつも賑わっていて安心して子どもを遊ばせることができるので、いつもきています。また、遊び場には普段関わるできない親世代の人や子ども達と交流することができ、子育てのノウハウなどを教えてもらっています。今一緒に遊んでいる子は、実はここで知り合ったお友達なんですよ！！
- ・授乳スペースやきれいなお手洗があり、下の娘を連れてきても安心して遊ぶことができます。幼児が遊べるエリアを示してくれているのも良いですね！安心して遊べるのでよく来るポイントです！
- ・大きな屋根があるので、日差しの強い日や小雨の日でも子どもを遊ばせる場所の選択肢の一つとして重宝しています。
- ・中央公園は高齢者の散歩にも多く利用されているので、高齢者と関わる機会が多く、いつも子供たちをかわいがってもらっています。子どもをかわいがってくれている高齢者の方、どこかで見たことあるなど思っていたら、荒見苑の昔遊び体験スペースの会員だったんです！

<今後公園でやりたいことは？>

- ・公園内でやっている昔遊び体験のお話を聞きました！ぜひ子どもを連れて参加してみたいです。
- ・あとは公園内で文化体験イベントができるといいですよ！昔遊びだけでなく、文化にもふれあえれば教養のある人間に育つかなと思っています。(笑)

【必要な機能、場所、キーワード】

- ・安心して子どもを見守れる遊び場の確保
- ・多世代交流
- ・親同士、子ども同士の交流

■ ケース2 タイトル【必死に応援！】

- 利用者：サッカーの習い事に来た兄弟 A 君 B 君（7 歳、10 歳）とその母親 C さん（37 歳）
- 時期：8 月
- 時間帯：休日の昼
- 利用頻度：週 1 回

<公園利用のきっかけは？>

息子がサッカーを習いたくて、周辺でサッカークラブを探していたら、中央公園で毎週練習しているクラブを見つけ、そこに入団したのできっかけです。グラウンドが人工芝なのでとても良い環境だなど思っています。入団 2 年目ですが、エースナンバーの 10 番を背負っています(笑)

<どのような利用をしていますか？ 中央公園の良いところは？>

- ・子どものサッカーの習い事で利用しています。河川敷での観戦は日影が無く、正直つらいですが、ここは日陰の観戦スペースもあり、見守る親としてはありがたいですね。
- ・習い事が終わると、子どもたちは遊びの広場で遊びたいといいます。保護者同士で仲を深める時間にもなるので、時間が許す限り遊ばせています！

<今後公園でやりたいことは？>

- ・毎月テニスサークルやママさんサッカー、ランニングサークルが開催されていることを最近知りました。私も公園のサークル活動に参加して、地元の色々な人と交流を持ち、公園を通して運動不足の解消ができればいいなと思います！

【必要な機能、場所】

- ・グラウンドの多目的利用（・公園内でサークル活動ができる場所の提供）
- ・日陰がある休憩場所の配置（・日陰の観戦スペース）
- ・安心して子どもを見守れる遊び場の確保

■ ケース3 タイトル【みどりに囲まれリフレッシュ】

- 利用者：周辺の工場で働いている A さん（41 歳）とその同僚 B さん（38 歳）
- 時期：4 月上旬
- 時間帯：平日の昼
- 利用頻度：週 1～2 回

<公園利用のきっかけは？>

この日はたまたま役場に用事があるとお昼休憩を利用して行ったのですが、春先の良い気候と役場から中央公園につながる街路樹に誘われて、近くのコンビニでお昼ご飯を買い、中央公園で昼食をとることにしました！

<どのような利用をしていますか？ 中央公園の良いところは？>

- ・木陰のかかったベンチで昼食を食べました。立派な木が多くあり、自然と触れ合うことができ、仕事の気分転換になりました。涼しくてとても過ごしやすかったです。
- ・昼食後に荒見苑内のカフェに立ち寄り、コーヒーを買い仕事に戻りました。
- ・取引先とのちょっとした商談の際に、荒見苑のカフェを利用しています。緑に囲まれた環境で落ち着いて商談を進めることができるので、うまくいくことが多いですよ（笑）

<今後公園でやりたいことは？>

- ・中央公園には人工芝のグラウンドがあることを知ったので、社員の家族を含めた大勢の人で、会社のレクリエーションなどを行えるといいですね。
- ・夜もカフェがオープンしていれば、仕事終わりに同僚と少しお茶をして帰ることができるのでいいかなと思います。

【必要な機能、場所、キーワード】

- ・日陰がある休憩場所の配置
- ・立派な樹木などの自然とふれあえる場所の確保
- ・荒見苑内での飲食機能の提供
- ・グラウンドの多目的な利用促進

■ ケース4 タイトル【仕事前に運動だ！】

- 利用者：健康志向の高い熟年夫婦（58歳、56歳）
- 時期：9月
- 時間帯：平日の朝
- 利用頻度：週4回

<公園利用のきっかけは？>

久御山町全体で設定されているウォーキングルート（歩くまちくみやま）に中央公園が入っていたので来ました。最近はもうすっかり秋になってきたので朝の散歩は気持ちが良いですね！！

<どのような利用をしていますか？ 中央公園の良いところは？>

- ・公園全体を周遊できることと、立派な樹木の木陰があって散歩しやすいです。
- ・スポーツクラブやジムはちょっと気が引けますが、健康広場では豊富な健康遊具があり、気軽に利用できるのも良いです。
- ・ちょっと疲れた時に休憩することができるベンチが適度に配置されているんです。休憩できる環境があると無理なく運動ができるので良いですね。
- ・朝は人が少なく、鳥のさえずりが良く聞こえるんです。鳥の解説板もあって、そこで紹介されている鳥が見つかった時は結構喜んじゃいます。解説板で紹介されている鳥が全部見つかるまで通い続けます！

<今後公園でやりたいことは？>

- ・街灯がもっとあったら、夜の散歩もしてみたいです。朝とはまた違う景色がみれるかなあ。
- ・健康遊具の正しい使い方や、自分の体力に合った利用方法などを教えてもらえる健康教室のようなイベントがあれば参加してみたいです！

【必要な機能、場所】

- ・公園内における周遊性の確保
- ・立派な樹木などの自然とふれあえる場所の確保
- ・豊富な健康遊具の設置
- ・ウォーキング利用者のための園路沿いへの休憩スポットや水飲みの設置
- ・鳥や樹木などの解説板の設置による自然とのふれあい促進
- ・街灯の設置
- ・鳥や樹木などの解説板の設置による自然とのふれあい促進

■ ケース5 タイトル【仲間との楽しい時間】

- 利用者：荒見苑のヘビーユーザー兼演奏会の出演者 A さん（71 歳）
- 時期：10 月
- 時間帯：夕方
- 利用頻度：週 5 回

<公園利用のきっかけは？>

いつも荒見苑を利用しています。以前まちづくりセンターで音楽イベントが開催されると聞いて、いつも荒見苑でお話ししているお友達を集めて出演することを決めたのですが、今日はその練習をやるために中央公園に来ました。

<どのような利用をしていますか？ 中央公園の良いところは？>

- ・いつもは荒見苑で友人とお茶をしています。朝から居たのに盛り上がってしまって、帰るのは夕方になるんですね！気分転換に気軽に体を動かせる散歩コースなどがあり、とても居心地が良いです。
- ・練習はいつも北側の地形の起伏が効いた広場で行っています。あの起伏がステージ性を演出しているとともに、以前設置されていたステージの機能もしっかり担保されていて良い場所ですね。
- ・吹奏楽部の学生さんもよくここで練習されているんです。お互いの演奏を聴いて感想を言い合ったりする仲間なんです（笑）普段は若い子たちと交流する機会がほとんどないので、いい刺激をもらっています。「私たちも若者に負けずに頑張らないと！」って気持ちになりますよね！

<今後公園でやりたいことは？>

- ・荒見苑での楽器貸し出しなどで、こどもに音楽のすばらしさを伝えられると良いですね！！そろそろ後継者探しを始めたいと思います（笑）
- ・公園の遊具で孫と遊ぶとすぐ疲れてしまうので、荒見苑の中でお茶をしながらけん玉などの昔遊びができるスペースがあると嬉しいです。

【必要な機能、場所】

- ・ステージ性のある広場の確保
- ・多世代交流できる場所の確保
- ・公園に長居できる工夫（休憩、食事、運動など）
- ・荒見苑内での飲食機能の提供
- ・楽器を貸し出しする仕組みづくり

■ ケース 6：タイトル【防災イベントで新発見！】

- 利用者：大学生 A さん(10 代)
- 時期：10 月
- 時間帯：夜
- 利用頻度：月 1 回

<公園利用のきっかけは？>

事前に告知されていた防災イベントにも参加するためにきました！バーベキューができると聞いてきたのですが、まさかいつも使っているベンチがかまどになって、そこでバーベキューをするなんて思いもしませんでした。SNS で防災情報を発信するとさつまいもを無料でもらえたので、かまどベンチで焼き芋を作りました。私史上 No.1 の焼き芋になりました（笑）

途中で小雨が降ってきたのですが、大屋根があるので、天候に左右されないところも良いですね！このイベントを通して、中央公園が有している防災機能について知ることができました！！

<どのような利用をしていますか？ 中央公園の良いところは？>

- ・いつもはグラウンドの一般開放の時間に友人とバドミントンをしています！良いところは、今日開催されている防災イベントのような催し物が頻繁に開催されていることですかね！災害は起きてほしくないですけど、もしもの時は中央公園に避難します。
- ・バーベキューのあとに、しっかり運動できる所！人工芝グラウンドでバドミンントンの練習をします！摂取したカロリーはその場で消費しないとすしね（笑）
- ・街灯が設置されているので、夜の BBQ も！

<今後公園でやりたいことは？>

- ・かまどベンチを災害やイベント時以外にも使えるとよいですね！防災について学ぶこともできると思います。

【必要な機能、場所】

- ・天候に左右されない場所の確保
- ・グラウンドの多目的な利用促進
- ・ゲートボール場の多目的利用の促進
- ・SNS を活用した情報発信がしやすい仕組みづくり

■ ケース7 【マルシェの準備完了！】

- 利用者：マルシェ運営者
- 時期：11月
- 時間帯：昼
- 利用頻度：月1回

<公園利用のきっかけは？>

いつもはイオン周辺でマルシェを行っているのですが、中央公園の人工芝グラウンドを活用してマルシェがしたいと思ったことがきっかけです。

<どのような利用をしていますか？ 中央公園の良いところは？>

- ・中央公園は広場だけでなくグラウンドにもイベントが開催しやすいように、イベント盤などの設備が設置されているところが良いですね！
- ・中央公園のグラウンドは公園外からよく見えるため、通りがかった人がたくさん立ち寄ってくれて、いつも賑わいがあるマルシェになるんです！その他には、キッチンカー用の動線もしっかりと整備されていて、マルシェを開催する立場からするととてもありがたいですね！

【必要な機能、場所】

- ・移動販売車に対応する動線や設備の確保
- ・公園外から公園内への見通しの確保
- ・地域活性化

■ ケース 8 【農業体験ツアーに参戦！】

- 利用者：町外からの利用者
- 時期：
- 時間帯：昼
- 利用頻度：年 1 回

<公園利用のきっかけは？>

以前、まちの駅クロスピアくみやまが主催している農業ワークショップに参加した際に中央公園で開催される農業体験ツアーのチラシをもらって、ぜひ参加してみたいと思ったことがきっかけです！

<どのような利用をしていますか？ 中央公園の良いところは？>

- ・私は町外に住んでいるので普段はあまりこの公園を利用していないのですが、職場が中央公園の近くにあるので、今度行ってみたいと思っていたんです！そんな時にチラシをもらって、迷わず参加を決めました！
- ・このツアーは近くの農園で自ら収穫した野菜を中央公園で料理して食べることができるんですよね！職場の近くにこんな大きな農園があるなんて知らなかったですし、中央公園では色んな人が活動されているんだなと思って！久御山っていいまちだなって改めて思いました（笑）
- ・久御山町の特産品である淀大根のおでんが絶品でした！旬だしね（12月～1月に収穫）！！寒かったので荒見苑の休憩スペースで食べました。暖かくなると、人工芝の上でシートを引いて食事したいですね。

【必要な機能、場所】

- ・「農」にふれあえる場所の確保
- ・地域活性化
- ・地元紹介スペースによる農業 PR
- ・特産物の提供など、地元との協力体制
- ・荒見苑内での休憩機能の提供

図表 4-1 各ケースのまとめ

ケース	利用者	将来の利活用イメージ	活用場所	必要な機能・場所
1	お父さんお母さん (30代) と娘2人 (3歳、1歳)	子どもを遊ばせる、多世代交流	あそびの広場	<ul style="list-style-type: none"> ・安心してこどもを見守れる遊び場の確保 ・多世代が交流できる場所の確保 ・親同士、子ども同士の交流
2	サッカーの習い事に来た兄弟A君B君 (7歳、10歳) とその母親Cさん (37歳)	習い事、観戦	グラウンド、日陰の観戦スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドの多目的利用の促進 (・公園内でサークル活動ができる場所の提供) ・日陰がある休憩場所の配置 (・日陰の観戦スペース) ・安心してこどもを見守れる遊び場の確保
3	周辺の工場で働いているAさん (41歳) とその同僚Bさん (38歳)	お昼ご飯	荒見苑、木陰がある休憩場所	<ul style="list-style-type: none"> ・日陰がある休憩場所の配置 ・立派な樹木などの自然とふれあえる場所の確保 ・荒見苑内での飲食機能の提供 ・グラウンドの多目的な利用促進
4	健康志向の高い熟年夫婦 (58歳、56歳)	ウォーキング	周遊園路、健康広場	<ul style="list-style-type: none"> ・公園内における周遊性の確保 ・立派な樹木などの自然とふれあえる場所の確保 ・豊富な健康遊具の設置 ・ウォーキング利用者のための園路沿いへの休憩スポットや水飲みの設置 ・鳥や樹木などの解説板の設置による自然とのふれあい促進 ・街灯の設置
5	荒見苑のヘビーユーザー兼演奏会の出演者Aさん (71歳)	仲間とおしゃべり、演奏会の練習	荒見苑、周遊園路、あそびの広場	<ul style="list-style-type: none"> ・ステージ性のある広場の確保 ・多世代交流できる場所の確保 ・公園に長居できる工夫 (休憩、食事、運動など) ・荒見苑内での飲食機能の提供 ・楽器を貸し出しする仕組みづくり
6	大学生Aさん (10代)	友人と防災イベント	多目的広場、グラウンド	<ul style="list-style-type: none"> ・天候に左右されない場所の確保 ・グラウンドの多目的な利用促進 ・ゲートボール場の多目的利用の促進 ・SNSを活用した情報発信がしやすい仕組みづくり

7	マルシェ運営者	マルシェ	グラウンド	<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売車に対応する動線や設備の確保 ・公園外から公園内への見通しの確保 ・地域活性化
8	町外からの利用者	農業体験ツアー	荒見苑	<ul style="list-style-type: none"> ・「農」にふれあえる場所の確保 ・地域活性化 ・地元紹介スペースによる農業PR ・特産物の提供など、地元との協力体制 ・荒見苑内での休憩機能の提供

第5章 コンセプトに基づく再整備の方向性

5.1 再整備の基本的な方向性

(1) 分断されている機能をつなぎ合わせるゾーニング

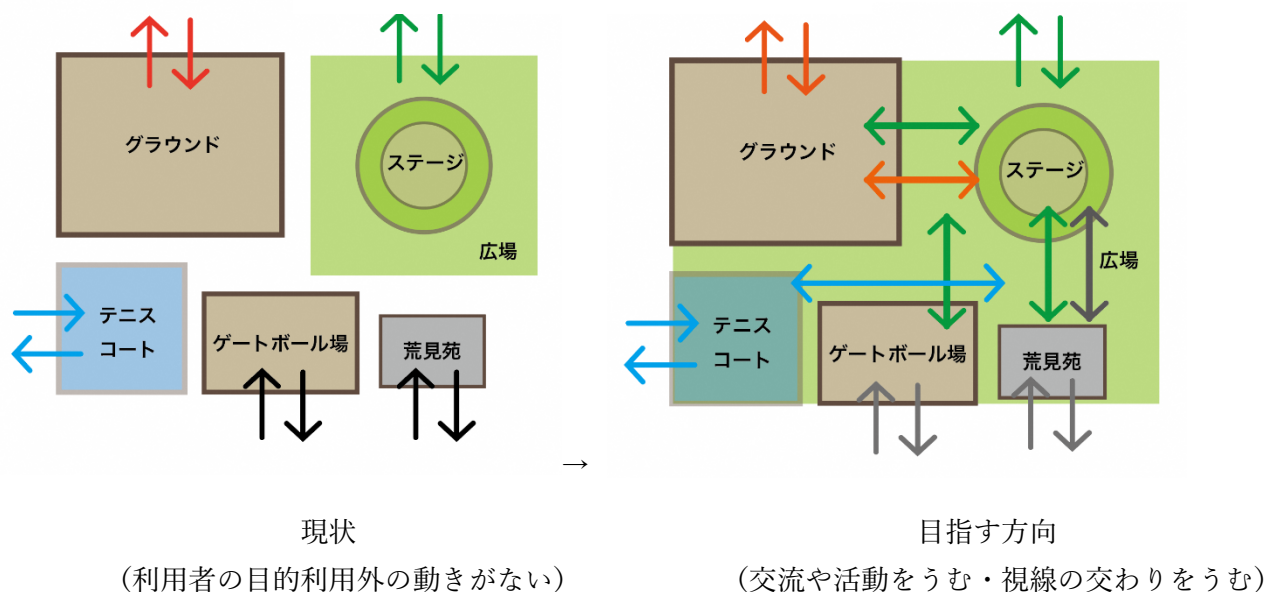
現状では、グラウンド、テニスコート、ゲートボール場、ステージ、複数の高台広場と、それぞれのゾーンが個別で完結しており、目的利用以外で立ち寄ることがなかったり、利用者間の交流がうまくいかない状況にある。物理的にも意識的にもゾーン同士がつながるような工夫が求められる。

公園全体をひとつのフィールドと捉え、公園をめぐる連続した風景を想像する必要がある。

現状では、グラウンド、テニスコート、ゲートボール場、ステージ、複数の高台広場と、それぞれのゾーンが個別で完結しており、目的利用以外で立ち寄ることがなかったり、利用者間の交流が生まれにくい状況にある。物理的にも意識的にもゾーン同士がつながるような工夫が求められる。

公園全体をひとつのフィールドと捉え、公園をめぐる連続した風景を想像する必要がある。

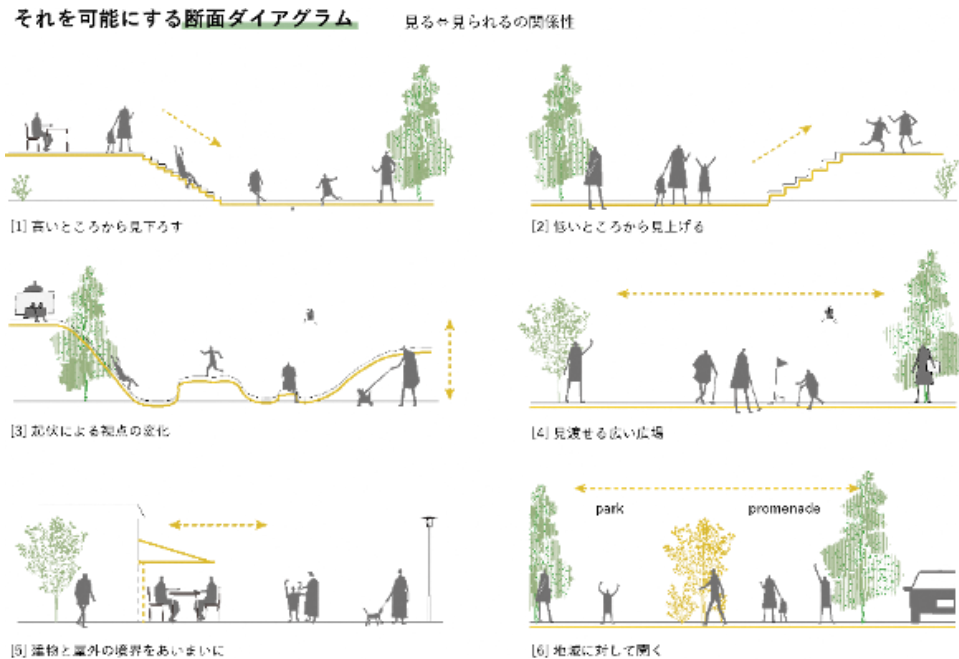
図表 5-1 ゾーニングの考え方



(2) 活動がつながる見る見られるを意識した視線の確保

現在ある高低差は各ゾーンを分断するものとして、否定的に扱われる傾向にあるが、イベント等活用方法によっては、個々の雰囲気を作り出すのに効果的であったり、フラットでないがゆえに全体が見渡せたり、音など目では見えないものの効果によって行きたくなる場所となったりすることが分かっている。多様な使い方を想定しながら、図に示すダイアグラムを参考に公園内の高低差を生かした計画を行い、公園の既存の地形を生かし、独自性を持ちながら、公園全体がひとつのフィールドとなり計画が必要である。

図表 5-2 見る見られるの関係性



(3) メリハリの利いた植栽計画

既存樹を適切に間伐することで、公園内への見通しを確保し、防犯性や公園外からの誘致効果を担保する。また、樹勢の良い樹木は極力残す方針とし、木陰の創出に寄与するとともに、来園者が自然と触れ合える空間を確保した計画とする。

(4) 高機能なスポーツ空間

従前より利用頻度の高いグラウンド及びテニスコートを中心に、より高機能かつ多目的に使えるスポーツ空間の提供を行う。天候に左右されにくい本格的な仕様の設備で子どもたちが野球やサッカーを習う一方、空き時間には住民が思い思いのスポーツを気軽に楽しめる機会も提供する。

(5) 多様な使い方を引き出す広場空間

多様な活動を行いやすいようにするために、あえて作り込まず、一面を芝生とする。芝生と園路の境目はフラットにつなげ一体感をもたせる。「既存樹木を活かした木陰スペース」、「築山や起伏をつくり園路や隣り合うゾーンとの視線に変化をもたせる」など、広場空間に変化をもたせ公園に多様な居場所や交流が生まれる手がかりとする。

(6) 歩きたくなる園路の改修

形状は現状を活かしながらも一部にゆるい起伏を与え、バリアフリーに配慮しながら自然を感じる園路空間を創出。メンテナンスやイベント時の車両利用を考慮し、一部を車道仕様とする。部分的に幅を持たせ、キッチンカーなどの移動販売車の乗り入れを想定しインフラも整備する。木陰やベンチ、デッキ広場などを併設し、歩くだけでなく、人やペットの休憩、路上パフォーマンスなど園路そのものにもアクティビティを可能にする計画とする。

(7) 流行りすたりがなく、直感的に遊べるこどもの遊び場

こどもたちの身体をダイナミックに使って遊べる空間を目指す。年齢層に合わせた遊具をつくり、幼児～小学生までが遊べるように計画。遊具そのものだけでなく、周辺の仕上げ等も含め、安全性及びインクルーシブ性に配慮した工夫を行う。アトラクション遊具のような人工的なものではなく、大小の起伏による地形のような遊具や園路に沿った手すりのようなさまざまな高さをもつ鉄棒など、遊び方を限定せず、こどもたちが考えて遊べ、景観上も融合するものとする。

(8) 休憩場所、ベンチ、日よけ、四阿

素材は木・鉄など自然を感じられるものを基本とし、維持管理を意識した形状や材料選定に配慮する。単独用途の工作物にとどまらず、複合的に使える柔軟なデザインを検討する。公園全体として見たときにはデザインに共通性をもたせ統一感のあるものとする。動線や環境に配慮し、多くの人が利用しやすい位置に新設する

(9) 飲食機能および授乳室、おむつ替え、更衣室

現在、公園内に飲食機能はないが、アンケート等によりニーズの高さが読み取れる。実験的に進められている既存マルシェの状況や町民ニーズや事業者の意向を考慮し、運営的な観点も含めて設置検討をする。

すでに、子育て世代の利用が多いことから、授乳室やおむつ替え室の充実は利用者の満足度を向上することが期待される。また、スポーツ利用者の多い当公園で、シャワーブースや更衣室の充実は利用者の満足度を向上することになるが、管理運営に加え事業性を高めることも前提に検討が必要である。

(10) 環境に配慮した空間・施設等の設計・整備

グラウンド下には内水排除対策として設置する雨水貯留施設と合わせ、公園に降った雨水等の循環利用を行うための施設も合わせて設置する。

(11) 連携施策

上記と合わせ、ハード・ソフトの関連施策の検討・実施を通じ、久御山中央公園再整備との相乗効果の創出も図る。

- バリアフリーかつ安心して気持ち良く歩けるアクセスロードの整備によるまちづくりセンター・町役場と中央公園との連携強化
- 木津川河川敷のグラウンドとの一体運用による利便性の向上
- 町内農家等との連携による農業体験プログラムの充実

図表 5-3 参考ゾーニング図と利用イメージ

■利用イメージ

ケース1「休日にまったりと」
 利用者：お父さんお母さん（30代）
 と娘2人（3歳、1歳）
 活用場所：あそびの広場
 将来の利活用イメージ：子どもを遊ばせる、
 多世代交流

ケース2「必死に応援！」
 利用者：サッカーの習い事に来た兄弟A君B君（7歳、10歳）
 とその母親Cさん（37歳）
 活用場所：グラウンド、日陰の観戦スペース
 将来の利活用イメージ：習い事、観戦

ケース3「みどりに囲まれりフレッシュ」
 利用者：周辺の工場で働いているAさん（41歳）
 とその同僚Bさん（38歳）
 活用場所：荒見苑、木陰がある休憩場所
 将来の利活用イメージ：お昼ご飯

ケース4「仕事前に運動だ！」
 利用者：健康志向の高い熟年夫婦（58歳、56歳）
 活用場所：周遊園路、健康広場
 将来の利活用イメージ：ウォーキング



ケース6「防災イベントで新発見！」
 利用者：大学生Aさん（10代）
 活用場所：多目的広場、グラウンド
 将来の利活用イメージ：友人と防災イベント

ケース7「マルシェの準備完了！」
 利用者：マルシェ運営者
 活用場所：グラウンド
 将来の利活用イメージ：マルシェ

ケース8「農業体験ツアーに参戦！」
 利用者：町外からの利用者
 活用場所：荒見苑
 将来の利活用イメージ：農業体験ツアー

ケース5「仲間との楽しい時間」
 利用者：荒見苑のヘビーユーザー兼演奏会の出演者Aさん（71歳）
 活用場所：荒見苑、周遊園路、あそびの広場
 将来の利活用イメージ：仲間とおしゃべり、演奏会の練習

第6章 プレ・サウンディングに基づく民間事業者のコメント

※本日は別資料にてご報告

第7章 事業スキームの検討

第8章 再整備のスケジュール案

第9章 まとめ